

令和2年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

1 開催日時 令和2年7月16日(木) 午前10時00分開会

2 開催場所 郷土博物館 研修室

3 出席委員

委員長	伊藤 誠	委員	高橋 佳代子
副委員長	武田 弘	委員	唐木 義昭
委員	加藤 みどり	委員	前沢 幸雄
委員	菊池 眞太郎		

(欠席委員)

委員	佐藤 優子	委員	篠原 美智代
委員	岩崎 照代		

4 出席職員

教育長	御園 朋夫	館長	西原 崇浩
生涯学習課長	生方 和義	主幹	桐村 久美子
顧問	井口 崇		

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

6 報告

- (1) 郷土博物館における新型コロナウイルス感染症対策について
- (2) 令和元年度郷土博物館事業報告について
- (3) その他

6 議題

- (1) 郷土博物館の使命と評価について
- (2) 令和2年度郷土博物館の事業計画について
- (3) その他

7 議事

伊藤委員長 報告(1)「郷土博物館における新型コロナウイルス感染症対策について」、事務局より説明をお願いします。

事務局(西原館長) 資料に基づき説明。

伊藤委員長 報告(2)「令和元年度郷土博物館事業報告について」、事務局より説明をお願いします。

事務局(桐村主幹) 資料に基づき説明。

伊藤委員長 その他ということで何かありますか。

桐村主幹 市民学芸員郷土を学ぶ会がおよそ2年をかけて市内全域を調査し、石造物を中心として、市内の文化遺産についての分布地図、データベース、パワーポイントを使った紹介映像を作成して、DVDに収めました。これを活用していただきたいということで、各公民館・図書館に配布しました。その関連としまして、今週末から自主企画写真展「馬に乗った観音様一わがまちにも」を開催します。まだ準備中ではありますが、本日の会議終了後、内覧ということで、ご覧ください。

伊藤委員長 質問があれば、次の議題の後でお願いします。

伊藤委員長 議題(1)「郷土博物館の使命と評価について」、事務局より説明をお願

いします。

事務局（桐村主幹） 資料に基づき説明。

伊藤委員長 何か質問等あれば。

唐木委員 2点あります。まず、この博物館にはどういった特徴があるのでしょうか。他の博物館にないアピール点は何ですか。それをどういう風に考えているか聞きたい。これは一例なのですが、私、波の伊八に興味がありまして、睦沢は、伊八の師匠に当たる島村圓鉄という方がいるのですが、その人を学芸員の方が研究されていまして、それを全面に押し出しています。いずれにしても、伊八と言う特徴を全体に押し出して、アピールしようという博物館の姿勢があるのですけれども、当博物館にも差別化というか、そういうアピールがあってもいいのではないかというわけです。

それから、2点目。これは希望という形なのですけれども、情報を発信する博物館であってほしいなということです。地域の歴史などをいろいろやってもらっているのですけれども、現在の袖ヶ浦について発信することを袖ヶ浦ではできないでしょうか。地域にはいろいろなできごとがありますから、そういった出来事を博物館から発信してもらって、地域との連携を深めていった方が。例えば、田植えがあった、稲刈りがあったというもの一つ、簡単な情報発信ですよね。行事の実績や背景があって、それを博物館がつかんでいれば、それを付け足して情報発信してもらおう。そういった日常的なものを発信してもらえればと思いました。博物館が発信する情報によって地域以外の人たちも知ることができるわけですから、そういうことによって、一層博物館に興味を持ってもらえるのではないかという意見です。以上です。

伊藤委員長 いろいろ意見がありましたが、1点目はここの特徴ということで、いろいろやっていただいていますけれども、そちらの方がいかがでしょうか。

桐村主幹 袖ヶ浦市郷土博物館の独自性、一番の特徴は、第一に袖ヶ浦市にあるということ。ですので、2番目の話にも関わりますが、袖ヶ浦市のことであれば何でも情報を持っていて、発進できる状態になっていなければならない、そうなりたいとは思っています。その上で、博物館を知らない人にもアピールしていくためにも何か1つ特徴があればというのも確かです。博物館として、国史跡である山野貝塚、国の重要無形民俗文化財である上総掘り、そのあたりはアピールしやすいものではありません。ですが、それ以外にも袖ヶ浦にはおもしろいものがいろいろありますので、これ1つというよりは、袖ヶ浦のことを何でも知ってもらえる博物館になればと思います。というわけで、2番目のご意見の「袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館・情報発信する博物館」には、ぜひともなりたいと思っています。貴重なご意見、ありがとうございます。

伊藤委員長 情報発信ということで、HPだとか、今回は9,700件だとか以前より増えている気がしますけれど、それ以外にも広報紙にのせたり、そのあたりはいかがですか。

桐村主幹 HPにつきましては、手軽に情報発信できる媒体ですので、もっとこまめな更新をしていきたいと思っております。今のところイベントがあるたびのお知らせになっているかと思うのですが、今後もっと学芸員のコラム的なものとか、豆知識的なものも発信していけたらと思います。イベント等も終わったらそれでおしまいではなく、企画展等にしても開催してから得る情報もありますので、そういったアフターフォローとしての情報発信もしていけたらと思います。また、HPだけですとインターネットを使えない方も多いので、使える媒体はなるべく使うということで、地域情報紙等は多く利用させていただいております。イベント等の場合は古典的な方法ですがチラシを作って自治会の回覧にのせてもらう。そういったこともやっております。また、新しい情報発信の方法がありましたら、取り入れていきたいと思っております。こんなのがあるよという情報がありましたら、

ぜひともおしえていただけたらと思います。

井口顧問

唐木さんのお話の独自性、どこの館も一番難しいと思っているのですけれど、当館は波の伊八とか、有名で注目されやすいものはなかなか少ないです。特徴として公園の中にあるというのが1つあって、公園の中にあるという点は自分たちの強みであると思っているのですが、公園の情報を流す等、できていないところは多いです。私たちが数十年こだわってきたのは、その核となる資料というか目玉、そういったものが非常に少ないところで何を使うかと言うと、地域の人がしっかりと活動してもらえる博物館になるということをめざして、友の会であるとか、市民学芸員であるとか、地域の人をつくるということに力を入れてきたつもりです。ですから、展示でこれが目玉だから、それを中心にというのは見えにくいところではありますが、さっきも話にでましたけど、山野貝塚であるとか、上総掘りであるとか、国指定になったからというのではないですけど、もっともっと他のものをリサーチして広めていくという努力は惜しんではいけないと思っていますけれども、とりあえず当館は、ものがまだ少ないから人で行こうというようなことで、他の博物館とはちょっと違って、そこに力を入れて頑張っていくというのを独自性としてやってきたところです。後は学芸員の方の専門の関係ですが、自然系の学芸員も存在する館になりましたので、子どもたちの夏休みの自然観察であるとか、調べ学習の相談であるとか、そういったことも充実していけるのかなと思っています。

伊藤委員長

特に博学連携事業等は、充実しています。

唐木委員

博物館は子どもの遊び場、地域の人達の交流の場。そういう2つの要素を持ってもらいたいなと思います。子どもの遊び場は、ミュージアムフェスティバルとかいろいろやっていますが、私は去年の会議の時に、カルタ大会をやったらどうですかと出したのですが、遊びにはそういった使い方もある。地域の交流というのは、私は根形公民館で講座に出ているのですけれども、時間が余ったので何か話しましょうかという時に、皆さんの地

域のお祭りについて話しましょうというのがありました。非常に盛り上がって1時間くらい話したことがあるのですが、博物館でも歴史とか関係なくとも交流の場を博物館としては提供していったらどうですか。旧進藤家住宅で車座になって話しましょうかというのもできます。子どもたちの遊び場というのを博物館の特徴として出すのも1つアイデアかなと思います。

伊藤委員長 根形公民館の成人絵画作品展は、すごく大勢の人が来てくれましたね。いろいろ意見が有りましたけど、ぜひ前向きにとっていただきたい。その他、あと1点くらい何かありませんか。

西原館長 1つだけ関連で、HPの関連なのですが、今独自に博物館のHPを動かしているのですが、10月までには市のほうのHPに集約して公開していくことになりますので、ご承知おきください。

伊藤委員長 では、続きまして（2）令和2年度郷土博物館の事業計画について、事務局より説明をお願いします。

桐村主幹 資料に基づき説明

伊藤委員長 皆さんの方から何か質問があればお願いします。

伊藤委員長 先ほども話にありましたが、アクアラインなるほど館が使えないところ、人気のある絵画展等を本館でやろうとすると、本館が密になってしまいますね。

加藤委員 それに関連できるかもしれませんが、市民学芸員葉月の会の植物画展ソデフローラが、今年はなるほど館での開催ができないということで、本館の入り口に展示スペースをいただいて、そこに私たちが描いた万葉植物園の植物画を展示しようという企画をしています。季節ごとに、例えば、

アジサイの時期にはアジサイをというように、ピックアップして展示しています。それがずっと続いていけばいいなと思っています。

伊藤委員長 絵画展は人気があるので、開催してあまり人が来すぎても困りますかね。

西原館長 現在、本館の利用人数ですが、各部屋に分散した形で、最大で35名です。ただし、来館者も分散して入って来るので、どこまで可能かが難しい。例えば成人絵画教室も、この周辺の風景を描いた絵を展示するのであれば、ここを会場に使ってもらえるのはベストだと思うし、展示室を使っていない時期であれば、使ってもらうのは問題ないと思っています。入館者がどの程度来られるかというのが読めない部分はあるのですが、感覚的なものになってしましますが、一度に10人、20人来られるということは、あまりないので、何とか対応できるかなと思います。この見えないコロナというものに対し、どうやって対策をとるかということには難しいところがありますが、もし根形公民館から相談があれば、こちらもまた対策を考えていきたいと思っています。

伊藤委員長 全部ができるというわけではないでしょうが、できるだけのことを、人数制限を守って密にならないようにお願いします。

桐村主幹 絵画展としての活用の話ですが、ちょうどこの週末から特別展示室で写真展を開催しますが、特別展示室は壁面が大きなガラスケースになっているのですが、その前にボードを立てて、ギャラリーのように会場を作りました。今後もまだアクアラインなるほど館が使えない状況が続いた場合、特別展示室をそのような形で使うことで絵画の展示にも活用できるという一例を示しておりますので、ご参考いただければと思います。また、特別展示室の廊下やその階段下の1階廊下などもワイヤーで絵画等がかけられるようになっていますので、そういった所も活用していただければと思います。

菊池委員 博学連携ですでに中止となっている事業も多いと思いますが、これらは日程を調整して今年度中に行うような形をとられるのか、すでに中止が決まっているのか。それでせつかく続いていたものが途切れてしまうような気がするのですが、それに対して、コロナ禍がいつ終息するのかわかりませんけれども、今まで何年も継続してきたものが途切れないように継続する方法について、何かありましたらお聞かせいただければ。

桐村主幹 基本的には学校の意向を重視しているので、学校と協議した上で、学校の要望があれば、実施しています。これまでは博物館にきて体験していたものをアウトリーチに振り替えた学校もあります。また、内容を一部変更して、校外学習として実施した学校もあります。博物館としては学校の要望になるべく応えられるように、時期も例年と同じでなくて大丈夫なので、やれることはやっていこうという考えでいます。

前沢委員 ちょうど今年から教科書が変更になって、教える順番が変わったので、今までやっていた時期とずれているということもあるのですがけれども、博物館にバスを使ってくることは難しいが、アウトリーチ、出前ということで、少し方法を変えながら、工夫してやっていければと思います。今年どうしても大人数移動できないということでしたら、今年はできないけれど来年ということでも、今年できなかったからといって切れることがないように考えています。

伊藤委員長 大型バスの制限が26名ということで、バスの移動が難しいようです。

井口顧問 先日、長浦小学校は、バスのピストンで来てくれました。先ほどもお話にあったように、工夫して途切れることなくやっていきたいと思います。

伊藤委員長 体験学習はオンラインでは難しい。

菊池委員 ある学年だけ体験ができなかったというのは、何か寂しい。

展覧会も開催するという前提で準備していますよね。そこで、万が一開催できないという可能性も起こりますよね。準備して集めた資料だとか、パンフレットやチラシも作ると思いますが、開催できなくなった場合に、無駄にならないような形がとれないかなど。

市民学芸員がDVDを作ったというのはとても良いことだと思います。コロナもこの1年で終わってしまえばいいのですが、何年も with コロナとなるかもしれない中で、限られた人数での対応は大変だと思います。

桐村主幹

ひとまず、今年度の企画展 I は、春先に予算をかけずに、館外からの借用をしないで館内の資料を使って、ごはん・お米をテーマとした企画を担当が考えた。これが秋にスライドしても内容的には変わらずに開催でき、パンフレットも作成する予定です。今回の展示パンフレットは館内にある農具のカタログ的なものであり、袖ヶ浦の米作りのカレンダー的な内容になるかと思います。今後もし企画展が開催できなくなったとしても、パンフレットや図録があればその記録は残ります。また、その際はネット配信等も実施したいと思います。

西原館長

昨年度のロビー展でも、「永吉台」の展示が途中から休館となったため、YouTubeの方に解説映像をアップしました。やはり準備してあれば、そういうことにも対応できますので、もしまた直前で急遽閉めるとなった場合、無駄になるものも多少出てくるかも知れませんが、集めたもの、どういった意図でこの展示をしたかという点については、何らかの対応で伝えたいと思います。

菊池委員

YouTube とか SNS とか、疎遠なのですが。

西原館長

YouTube 等は一部の人しかわからないのですが、図録・パンフレットはどなたでも見ていただけますので、それについては予定通り作ります。

伊藤委員長

これからのことはまだどうなるかわかりませんので、状況に応じてその都度対応していただきたい。

伊藤委員長 では、その他ということでは何かありますか。

西原館長 ミュージアムフェスティバルについて、今年延期しましたが、実行委員会を書面会議で開催し、意見をいただきました。その段階ではすぐに決断できなかったのが延期という形になっています。少なくとも夏にはやるかやらないか決めましょうということで保留になっています。個人的にはやるのは難しいかなとは思っていますが、実行委員会の皆さんの意見をうかがって、再度検討します。

伊藤委員長 大人数になるのが難しいのでは。

西原館長 再会にあたり、各部屋の人数を制限しています。これを覆すことになるので、多少のぶれは仕方ないとしても、事業をやるからそこだけ許すというのも利用者に説明がつかないということもあります。その辺を踏まえて実行委員の意見を伺おうと思っています。

伊藤委員長 ではよろしいですか。以上で議事を終わりにしたいと思います。

桐村主幹 皆様ありがとうございました。お時間のある方は、この後写真展の内覧がございましたので是非ご参加ください。

閉会

令和2年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会

会議次第

日 時 令和2年7月16日(木)
午前10時から
場 所 郷土博物館 研修室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 報 告

(1) 郷土博物館における新型コロナウイルス感染症対策について(10分)

(2) 令和元年度郷土博物館事業報告について(15分)

(3) その他

5 議 題

(1) 郷土博物館の使命と評価について(40分)

(2) 令和2年度郷土博物館の事業計画について(15分)

(3) その他

6 閉 会

報告（１）郷土博物館における新型コロナウイルス感染症対策について

1 郷土博物館の休館から再開までの経緯

日にち	休館及び再開等の内容	備考
3月5日 ～3月16日	臨時休館 郷土博物館本館、アクアラインなるほど館 理由：資料を保存・保管するという博物館の性格もあり、窓がなく、換気ができない施設のため（期間については、国・県の施設を参考）	3月2日～3月25日 市立小中学校の臨時休校
～3月31日	臨時休館の延長	県内で患者の発生が増加
～4月15日	臨時休館の延長 旧進藤家住宅も休館の対象となる。	3月20日 木更津市で患者発生
4月8日 ～5月6日	施設の閉鎖 ※千葉県から施設の使用停止の協力要請（5月14日）	4月7日～5月6日 緊急事態宣言発令
4月8日 ～5月31日	閉鎖期間の延長	4月7日～5月31日 緊急事態宣言延長 ※5月25日宣言解除
6月2日 （1日月曜休館日）	施設の再開 郷土博物館本館、旧進藤家住宅 ※アクアラインなるほど館は臨時休館 理由：施設内の換気が困難なため	

2 郷土博物館の再開について

(1) 再開方針

5月25日付けで国の緊急事態宣言が解除され、千葉県では博物館・美術館を5月22日から施設の使用停止を解除するA区分として示されたため、郷土博物館は6月2日から再開することとした。

なお、再開するにあたり、(公財)日本博物館協会が示した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づき、「郷土博物館の開館に向けた対処方針」として感染症対策を講じた上で、開館する。

アクアラインなるほど館については、窓がなく、換気機能を備えた空調機がないため、当面の間、休館とする。

(2) 主な留意点

- ①マスクの着用、咳エチケットや手指消毒を徹底する

- ②「3つの密」を避ける
- ③十分な換気を行うこと
- ④人と人との間隔を2 m以上とする
- ⑤体調不良の者の施設の利用を停止すること

(3) 主な対処方針

- ①消毒や衛生面の管理
- ②見学
 - ・展示室床面に2 m間隔のフローアーマーカーを設置する。
 - ・各展示室入口に入室可能人数を表示する。
- ③館内の換気
 - ・空調機や窓の開放
 - ・換気が不十分な箇所は部分的に閉鎖
- ④触れる展示物等の停止
 - ・模型展示への接触防止
- ⑤図書室の使用停止
- ⑥滞在目的の設備への対応
 - ・椅子等の撤去や間引き
- ⑦館内での濃厚接触の回避
 - ・受付のビニールカーテンの設置
- ⑧露出展示物・映像展示資料の保護
- ⑨入館者数の管理
 - ・入館者名簿の提出

など

3 段階的な利用制限の解除

国・県や周辺地域の動向並びに社会情勢を踏まえ、一部停止している施設や展示室について、段階的に再開する。

報告（2）令和元年度郷土博物館事業報告について

（1）令和元年度の経営方針及び重点施策

1. 経営方針

第2期教育ビジョンの目標である「明日を拓く 心豊かな たくましい 人づくり」の実現に向け、学校・家庭・地域の連携強化による地域の教育力の向上を図るとともに、郷土の歴史と文化の保存・継承に努めます。

そのため、平成24年度に策定した「袖ヶ浦市郷土博物館の使命」を重点施策とし、市内の文化遺産（地域資料）を中心に調査研究活動及び収集・保管・展示を行い、市の歴史を探ります。また、市民学芸員・友の会等との協働により教育普及事業・博学連携事業のさらなる充実を図り、市民や学校への学習支援を行い、市民活動の場、知的交流の場としての利用を促進して参ります。そして、多くの来館者が安心・安全に利用していただけるように、施設を適切に管理します。

2. 重点施策

(1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

博物館活動の原点である地域における調査研究と地域資料の収集・保存・管理に努め、市民の共有財産として次世代に継承します。

また、地域資料の調査研究の成果を各事業の開催により市民と共有します。

さらに、ホームページ・新聞等を活用して博物館活動を広くPRし博物館利用の促進を図ります。

調査研究

- ・山野貝塚に関する調査
- ・袖ヶ浦市内の生物に関する調査
- ・中世荘園に関する調査

地域資料管理活用事業の展開

- ・地域資料の調査収集及び活用
- ・収蔵保管資料の適正な管理
- ・収蔵資料の修復委託（奈良輪漁業組合資料）
- ・ホームページによる情報発信
- ・古文書等表題データベース作成
- ・『市史研究第20号』原稿募集

(2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。

市民のニーズに応じた常設展示を部分的に更新するとともに、企画展や特別展を計画的に開催します。また、市民の生涯学習の拠点とするとともに、市民が自らの意志で参画できるような展示を企画します。

また、博学連携事業の更なる充実を図るとともに、身近な学びの場として子どもたちが日常的に活用できるよう、博物館活動の周知に努めます。

さらに、市民の博物館活動の参画を促すために、市民学芸員や友の会の活動を支援するとともに、新たな人材の発掘と育成を図り、市民と共に歩む博物館活動の充実に努めます。また、市内外の各種団体との連携により地域の魅力発信に努め、地域文化の向上に貢献します。

①展示更新推進事業の展開

- ・企画展3回（事業の目標値 入館者数 21,000人以上）
 - 企画展Ⅰ「袖ヶ浦の水辺～人と生き物の暮らし～」
 - 企画展Ⅱ「幕末維新の西上総－おらがの慶応4年－」
 - 企画展Ⅲ「eco生活事始め－考古資料から見た上手な資源の使い方－」

千葉県教育振興財団共催

- ・常設展示の部分更新（近現代）
- ・旧進藤家住宅での各種展示
- ・アクアラインなるほど館での各種展示（事業の目標値 年6回以上の展示）
- ・展示施設の活用を充実するためのワークショップ（体験型講座）の開催

②教育普及事業の推進（事業の目標値：協働事業の実施回数 年5回）

- ・山野貝塚関連事業の開催
 - i 初歩から始める大人のための縄文講座
 - ii 山野貝塚現地説明会
- ・友の会、市民学芸員、上総掘り技術伝承研究会との協働によるミュージアム・フェスティバルの開催
- ・フィールド・アドベンチャーの開催
- ・博物館講座「袖ヶ浦学」の開催
- ・友の会との共催による自然と歴史の散策会

③博学連携事業の拡充

- ・校外学習支援（市内・市外）
- ・資料の貸出・学習相談
- ・教員対象研修の実施
- ・学校向けワークシートの作成
- ・アウトリーチ活動（出前講座・出前授業）

（事業の目標値：アウトリーチ 実施回数 年3件）

- ・山野貝塚体験型プログラム作成（中学生版）

④みんなにやさしい事業の推進

- ・高齢者施設との連携（博福連携）
- ・多言語対応の推進
- ・ハンズオンの充実

⑤市民学芸員の養成と支援

- ・市民学芸員の新規募集
- ・市民学芸員養成講座及びフォローアップ研修の実施
- ・市民学芸員主催イベント（子どもの日イベントなど）への支援
- ・市民学芸員『どんぐりの会』会報（どんぐり便り）の発行
- ・地域史掘り起こし研究への支援
- ・グループ活動の支援

⑥上総掘り技術伝承研究会活動の支援

- ・活動場所の確保 ・資材調達 ・活動PR ・補助金申請等の活動援助

⑦郷土博物館友の会活動の支援

- ・『友の会だより 46・47号』の発行

- ・友の会各グループ活動(凧の会、何でも有り会、仏像を学ぶ会、土器作りの会、古文書いろはの会、機織りの会、盆栽愛好会)への支援
- ・友の会グループ主催イベント(新春凧揚げ会、盆栽展示など)への支援
- ・凧の会が参加する「かずさの国 凧あげフェスタ」への協力

⑧幼児期からの博物館体験

- ・そではくのもりでの親子での体験活動

(3)市民の生涯学習拠点としての安全・安心な施設を提供します。

市民の快適な学習環境を整えるために管理施設の安全状況を把握し、施設の管理計画を立てます。また、バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づき、安全・安心で誰にも優しい施設を提供します。

施設管理事業

- ・安全点検の実施(月1回)
- ・施設自主点検の実施
- ・避難訓練、消火訓練及び救急訓練の実施
- ・IPM(総合的病害虫管理)の理念に基づいた展示、収蔵環境管理の実践
- ・維持管理及び修繕による安全確保

(4)博物館としての独自性を追求します。

学校・他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化するとともに、袖ヶ浦公園・周辺の遺跡・歴史遺産を活用し、博物館と市民が融合した魅力的な博物館活動を継続します。

①周辺施設との連携

- ・公民館、図書館等社会教育機関でのアウトリーチ活動(出前講座・展示)
- ・袖ヶ浦公園、根形公民館との連携を強化し、事業の相乗効果をはかる。

②郷土博物館実習生の受入

- ・学芸員資格取得を目指す学生に対して、博物館法施行規則第1条に定める「博物館実習」の機会を提供し、後進の育成を行う。

③各博物館協会協議会等への参加

- ・日本博物館協会、関東博物館協会、千葉県博物館協会、君津地方公立博物館連絡協議会へ参加し、各種団体及び機関との事業連携を図ります。

④博物館周辺の景観整備

- ・緑地管理
- ・万葉植物園等屋外附属施設管理
- ・公園管理組合との共通認識をもった管理

⑤国県等の博物館施策及び文化財保護行政の動向把握

- ・文化財保護法や文化芸術基本法の改正に基づく国県等の動向並びにこれからの博物館制度の動きを把握する。

(2)郷土博物館事業の記録

①博物館協議会

博物館法第20条に基づき、博物館の運営に関し館長の諮問に応じ、博物館の各種事業企画等について審議するとともに、市民とともに歩む博物館活動の充実について審議した。

	時期・内容	人数
第1回博物館協議会	令和元年7月25日(木) 市立市川考古博物館並びに堀之内貝塚、姥山貝塚現地視察	7人
第2回博物館協議会	令和元年11月19日(火) 郷土博物館の使命と評価について ほか	7人
第3回博物館協議会 (書面会議)	令和2年3月3日(火) 令和元年度郷土博物館事業の成果と課題について ほか	10人

②博物館運営事業

博物館活動を円滑に遂行するための各種事務、並びに日本博物館協会・君津地方公立博物館協議会等の各種関係団体との情報交換・調査研究・研修等を行いました。

- ・6月7日 千葉県史料保存活用連絡協議会講習会(千葉県文書館)
- ・6月13日 令和元年度君津地方公立博物館協議会第1回研修会(袖ヶ浦市郷土博物館)
- ・6月14日 令和元年度関東地区博物館協会第1回研究会(栃木県立博物館)
- ・7月3日 令和元年度全国博物館長会議(文部科学省)
- ・7月9日 工場見学会・補修体験会(プリザベーション・テクノロジーズ・ジャパン)
- ・8月23日 令和元年度君津地方公立博物館協議会第2回研修会(袖ヶ浦市郷土博物館)
- ・9月3日～9月6日
国際博物館会議(ICOM)京都大会・第67回全国博物館大会(国立京都国際会館・京都府立京都学歴彩館)
- ・11月1日 令和元年度関東博物館協議会第2回研究会(千葉県立現代産業科学館)
- ・11月27日～11月29日
令和元年度ミュージアム・マネジメント研修(東京国立博物館)
- ・12月11日 令和元年度千葉県博物館協会研修会(千葉県立美術館)
- ・12月14日 縄文セミナー2019「自然と人間のかかわりを学ぶ」(千葉県立中央博物館)
- ・12月20日 第14回無形民俗文化財研究協議会(東京文化財研究所)
- ・1月15日 令和元年度千葉県博物館協会研究報告会(千葉県立現代産業科学館)
- ・1月21日 令和元年度千葉県博物館・美術館等職員研修会(千葉県立中央博物館)
- ・1月31日 令和元年度君津地方公立博物館協議会館外研修会(飛ノ台史跡公園博物館・船橋市郷土資料館)
- ・2月3日 保存環境に関する研究会—保存環境調査研究、この30年—(東京文化財研究所)
- ・2月6日 全国歴史民俗系博物館協議会令和元年度関東ブロック集会(東京都江戸東京博物館)

③調査研究事業

地域の歴史に関する資料の収集・保存等の調査や企画展に関する調査を行うとともに、学芸員の個別調査研究を進めた。

- ・山野貝塚に関する調査

- ・中世荘園に関する調査
- ・民俗・祭祀に関する調査
- ・袖ヶ浦市内の生物に関する調査 等

④教育普及事業

地域に根ざした博物館活動、市民の学習意欲に応えられる博物館活動の一環として、各種講習・講座の充実を図るとともにミュージアム・フェスティバル等の普及活動にも積極的に取り組みました。

★博物館講座「袖ヶ浦学」 (5回) 講座として6回開催。歴史・民俗分野を主としながらも、多角的に「袖ヶ浦」に迫る内容としました。	4月～3月	一般
第152回 友の会共催『近世江戸湾における海上交通について』 (講師 山本 光正氏)	4月28日(日)	34人
第153回 『小櫃川の河口に生きる生物たち』 (講師 大島 健夫氏)	7月14日(日)	雨天のため中止
第154回 『日本の茅葺、世界の茅葺ーその多様性と技術ー』 (講師 日塔 和彦氏)	12月15日(日) (9月21日(土) 台風により順延)	28人
第155回 『西上総戊辰戦争サミット「語り継ごう戊辰戦争、その時の西上総」』 (講師 實方 裕介氏、宮本 敬一氏、河野 十四生氏、高橋 覚氏)	10月26日(土)	70人
第156回 『カマド構造と移民集落』 (講師 栗田 則久氏)	1月25日(土)	19人
	合計	151人
★ミュージアム・フェスティバル 6月1日(土)・2日(日)の両日にわたり、世代を越えた市民のふれあいの場とするとともに、新たな博物館利用者獲得のため、各種教育普及関連事業を行い、ミュージアム・フェスティバルを開催しました。 ミュージアムコンサート・貝輪づくり・アンギン織り体験・古代の匠に挑戦・上総掘り体験等各種イベントを開催し、友の会展示コーナー・模擬店なども運営し、袖ヶ浦高の吹奏楽部、木更津高のジャグリング部の出演などにより盛り上がりました。	6月1日(土) ～6月2日(日)	3,749人
★自然と歴史の散策会 (2回) 県内外の史跡・博物館等を見学し、歴史に親しむとともに市民の交流の場として、事業を展開している。		

第1回 浜離宮恩賜庭園	6月15日(土)	31人
第2回 埼玉県立さきたま史跡の博物館ほか	1月24日(金)	37人
	合計	68人
★フィールド・アドベンチャー (3回) 次代を担う子供たちに、ふるさと袖ヶ浦の自然を通して自然の一部である私たちの存在を認識し、未来を考える機会を提供している。	年3回	青少年～一般
第1回 しいのもりホテル観察会 ～環境保全の取り組みを学ぼう！～ (講師：椎の森里山会会員)	6月16日(日)	24人
第2回 自然観察会 ～谷津田の生き物を見てみよう！～ (講師：上総自然学校職員)	6月22日(土)	13人
第3回 冬の野鳥観察会 ～上池の鳥たち～ (講師：大島 健夫氏)	2月23日(日)	12人
	合計	49人
★博図公連携事業等(公民館等体験事業、出前講座等のアウトリーチ)	通年	
木更津市郷土博物館金のすず友の会記念講演「望陀布と古代の紡織」	4月14日(日)	35人
袖ヶ浦市民会館 子どもチャレンジ教室「企画展解説、博物館バックヤードツアー」	5月19日(日)	12人
市研生活科研修「企画展解説、生活体験学習体験」	6月20日(木)	29人
袖ヶ浦市民会館 高齢者学級「昭和地区まちあるき」	5月28日(火)	81人
夏休み調べ学習相談会(中央図書館)「歴史・郷土」	7月25日(木)	6人
千葉県文化財保護協会第2回文化財講演会「国指定史跡山野貝塚の特性について」	8月31日(土)	114人
根形公民館第3回地域再発見講座「移動教室及びミニ講話 in 朝比奈切通し」	8月31日(土)	23人
退職校長会研修会「昭和地区周辺散策会」	9月26日(木)	9人
袖ヶ浦市民会館 さわやかセミナー働きざかりの男塾「発見！袖ヶ浦 袖ヶ浦市の歴史を知ろう～過去から未来まで～」	9月28日(土)	12人
千葉市科学館 海の学びシンポジウム「山野貝塚と海のかかわりについて」	2月11日(火)	36人
スマイリーキッズ生活体験学習会	2月11日(火)	16人

	合計	373 人
★その他各種普及事業 市民学芸員や博物館友の会のワークショップや 単発的な各種講座等を開催している。	通年	
かずさの国 凧あげフェスタ（海浜公園）	5月4日（土・祝）	900 人
こどもの日イベント 「市民学芸員と遊ぼう！」 （市民学芸員主催）	5月5日（日・祝）	362 人
企画展『袖ヶ浦の水辺～人と生き物の暮らし～』関 連イベント 展示解説会（第1回）	5月19日（日）	30 人
企画展『袖ヶ浦の水辺～人と生き物の暮らし～』関 連イベント 展示解説会（第2回）	6月8日（土）	11 人
企画展『袖ヶ浦の水辺～人と生き物の暮らし～』関 連イベント 展示解説会（第3回）	7月20日（土）	18 人
1日ジュニア学芸員体験 上池には何が住む??	8月3日（土）	11 人
十五夜コンサート～雅楽のしらべ～	9月14日（土）	台風被害の ため中止
企画展Ⅱ 『幕末維新の西上総～おらがの慶応4年 ～』 関連イベント 展示解説会（第1回）	10月5日（土）	25 人
初歩から始める大人のための縄文講座 ～縄文時代 を知ろう！～ 第1回 テーマ：縄文時代はどんな 時代	10月19日（土）	11 人
初歩から始める大人のための縄文講座 ～縄文時代 を知ろう！～ 第2回 山野貝塚とそでがうらの縄 文時代	11月9日（土）	15 人
企画展Ⅱ 『幕末維新の西上総～おらがの慶応4年 ～』 関連イベント 展示解説会（第2回）	11月16日（土）	28 人
企画展Ⅱ 『幕末維新の西上総～おらがの慶応4年 ～』 関連イベント 移動講座①幕末さんぽ 江戸 編	11月24日（日）	43 人
アクアラインなるほど館ロビー展『ソデフローラⅥ』 関連イベント植物画体験講座 「植物画を描こう」（市 民学芸員：葉月の会主催）	11月30日（土）	9 人
企画展Ⅱ 『幕末維新の西上総～おらがの慶応4年 ～』 関連イベント 展示解説会（第3回）	12月7日（土）	5 人
企画展Ⅱ 『幕末維新の西上総～おらがの慶応4年 ～』 関連イベント 移動講座②幕末さんぽ 房総 編	12月8日（日）	33 人
市民学芸員によるお飾り作り体験会	12月21日（土）	21 人
新春凧揚げ会	1月11日（土）	42 人

初歩から始める大人のための縄文講座 ～縄文時代を知らう！～ 第3回 市内の縄文遺跡を歩く)	1月19日(日)	14人
企画展Ⅲ 『令和元年度出土遺物公開事業 eco 生活事始めー考古資料から見た上手な資源の使い方ー』 関連イベント 展示解説会(第1回)	1月26日(日)	34人
ミニ和風づくり教室	2月1日(土)	28人
企画展Ⅲ 『令和元年度出土遺物公開事業 eco 生活事始めー考古資料から見た上手な資源の使い方ー』 関連講演会	2月8日(土)	174人
企画展Ⅲ 『令和元年度出土遺物公開事業 eco 生活事始めー考古資料から見た上手な資源の使い方ー』 関連イベント 展示解説会(第2回)	2月16日(日)	13人
初歩から始める大人のための縄文講座 ～縄文時代を知らう！～ 第4回 山野貝塚講演会へ参加	2月22日(土)	16人
企画展Ⅲ 『令和元年度出土遺物公開事業 eco 生活事始めー考古資料から見た上手な資源の使い方ー』 関連イベント 展示解説会(第3回)	2月29日(土)	感染症対策のため中止
初歩から始める大人のための縄文講座 ～縄文時代を知らう！～ 第5回 拓本をとってみよう	3月7日(土)	感染症対策のため延期
友の会古文書いろはの会・何でもあり会合同企画 「房総幕末さんぽ」	3月10日(水)	感染症対策のため延期
市民学芸員自主企画 写真展「馬に乗った観音様ーわがまちにもー」関連イベント ギャラリートーク	3月20日(金・祝)	感染症対策のため中止
市民学芸員自主企画 写真展「馬に乗った観音様ーわがまちにもー」関連講座 「西上総の馬頭観音」講師 稲木 章宏氏(木更津市教育委員会)	3月29日(日)	感染症対策のため延期
	合計	1,843人
★友の会活動への支援 7グループ(風の会・土器作りの会・仏像を学ぶ会・何でも有り会・古文書いろはの会・機織りの会・盆栽愛好会)が自主的に活動している。会報46・47号を発行。自主活動のほかに館との共催でロビー展示・自然と歴史の散策会を実施している。ミュージアム・フェスティバルにも積極的に協力した。	通年	会員69人
★上総掘り技術伝承研究会の活動支援 博物館敷地内の足場で掘削、竹ヒゴづくりなど実施。ミュージアム・フェスティバルに参加した。	通年 (毎週土曜日、もしくは日曜日活動)	会員15人

⑤地域資料管理活用事業

館蔵資料(古文書等)の台帳作成及び整理や閲覧対応(デジタル公図を含む)を行っている。また、資料保存のための燻蒸処理、虫害等防止のための館内環境整備を行った。博物

館の収集・収蔵資料を整理・情報化し、利用者に提供するとともに、博物館活動を広く PR するためホームページを活用しこまめな更新による情報発信を行っている。『袖ヶ浦市史研究』第 20 号の原稿を募集した。

- ・奈良輪漁組史料の保存・修復を行った。
- ・収蔵庫の資料整理及び適切な資料の保存
- ・収蔵資料の調査研究と公開
- ・ホームページのアクセス数 9,741 件/年
- ・旧進藤家住宅襖絵の鑑定を行った。

⑥ 博学連携事業

博物館が学校と連携し、学校教育の中で、博物館の施設や資料を活用することで、子どもたちの経験値向上と郷土愛の育成を図る。体験学習等への市民学芸員（ボランティア）の参加により、大人も子供も育つ世代間交流の場としても機能している。

校外学習支援（事業目標 年 15 校）	通年	市内外の小中学校 17 校 1,328 人
アウトリーチ活動(出前展示・出前授業) (事業目標 年 3 件)	通年	8 件 587 人
学習相談	通年	6 件
職場体験(市内中学 2 年生)	通年	2 校 5 人
実物資料貸し出し	通年	3 校 33 点
図書貸し出し(物流システム利用、ビデオも含む)	通年	1 件 4 点
博物館実習生受入	通年	6 校 6 人

⑦ 展示更新推進事業

本館では、歴史展示室の近現代コーナーについて、一部展示替えを行いました。また、附属施設となるアクアラインなるほど館・旧進藤家住宅では、ロビー展示や各種イベントの開催や体験学習などで施設の有効活用を図りました。さらに、市民の知的要求に応え、リピーターの確保に努めるため、企画展 3 回・アクアラインなるほど館ロビー展 9 回を開催しました。

★常設展 本館では、映像・歴史・民俗・昭和の暮らし・上総掘り・国史跡山野貝塚各部屋の展示及び情報提供によって、袖ヶ浦市の暮らしの移り変わりなどを理解しやすいものとした。 アクアラインなるほど館・旧進藤家住宅・万葉植物園等の屋外展示施設の有効活用を図っている。 また、市民の知的要求に応え、リピーターの確保に努めるため、企画展・ロビー展等を行い、常設展では、歴史展示室の近代コーナーの展示替えを行った。	本館 9/10～20 台風被害による臨時休館 3/5～31 感染症対策のため臨時休館	30,210 人
	なるほど館 9/10～20 台風被害による臨時休館 3/5～31 感染症対策のため臨時休館	11,337 人

	旧進藤家住宅 9/10～20 台風被害による臨時休館 3/25～31 感染症対策のため臨時休館	16,892 人
	合計	58,439 人
★企画展 (3回)		
企画展Ⅰ『袖ヶ浦の水辺一人と生き物のくらしー』	5月1日(水・祝) ～9月1日(日)	14,041 人
企画展Ⅱ『幕末維新の西上総ーおらがの慶応4年ー』	10月5日(土) ～12月15日(日)	5,959 人
企画展Ⅲ『eco 生活事始めー考古資料から見た上手な資源の使い方ー』	1月11日(土) ～3月1日(日)	4,691 人
	合計	24,691 人
★アクアラインなるほど館ロビー展 (10回)		
『袖ヶ浦ナイススポット再発見!』市民学芸員(平成30年度継続事業 3/23～4/14 1,597人)	4月1日(日) ～4月14日(日)	850 人
『根形公民館成人絵画教室生徒作品展』	4月26日(金) ～6月9日(日)	2,690 人
『万葉集、花と樹の歌～市民学芸員・瀧良子植物画の世界～』	6月22日(土) ～7月15日(月・祝)	608 人
『危険生物!海のならずもの展』	7月20日(土) ～9月29日(日)	2,061 人
『幕末写真館ー激動の時代を生きた人びとー』	10月5日(土) ～10月31日(木)	732 人
『盆栽展』博物館友の会 盆栽愛好会	11月2日(土) ～11月4日(月・祝)	423 人
『植物画展 ソデフローラⅦ』市民学芸員葉月の会	11月19日(火) ～12月15日(日)	771 人
『につぼんの郷土風』博物館友の会 風の会	1月8日(水) ～2月2日(日)	834 人
『展示模型解説 永吉台遺跡群編ー平安時代の○○村』	2月8日(土) ～3月4日(水)	1,049 人
市民学芸員郷土を学ぶ会主催 写真展 『馬乗り馬頭観音ーわがまちにもー』	3月20日(金) ～5月10日(日)	感染症対策のため延期
	合計	10,018 人

⑧市民学芸員協働事業

市民とともに歩む博物館の実現のため、市民学芸員を育成し、協働による博物館事業の実施や調査・研究活動の支援を行いました。また、年末の特別休館による館内整理や台風 15 号の後の万葉植物園園路復旧作業も市民学芸員の協力を得ました。今年度より、市民学芸員相互及び館職員との情報共有と親睦を目的に定例会を実施しました。

七夕まつり（展示作業等）	7月1日（月）	16人
	7月8日（月）	16人
市民学芸員養成講座（博物館実習と合同）	7月30日（火） ～8月9日（金）	4人
市民学芸員フォローアップ研修①	7月10日（水）	23人
万葉植物園園路復旧作業	9月10日（火）	6人
十五夜コンサート準備	9月7日（土）	14人
市民学芸員フォローアップ研修②	10月9日（水）	16人
市民学芸員移動研修①	12月1日（日）	17人
市民学芸員移動研修②	3月24日（火）	感染症対策のため延期
年末館内整理	12月17日（火） ～12月24日（火）	7人
ひな人形展示（展示作業）	2月10日（月）	18人
	2月14日（金）	18人
全体会議・定例会	4月21日（日）	17人
	7月28日（日）	14人
	8月25日（日）	16人
	12月22日（日）	13人
	1月26日（日）	12人
体験学習協力	通年	88人
万葉植物園整備（万葉グループ活動）	通年	会員数 15人
植物作画活動（葉月の会活動）	通年	会員数 10人
地域文化財マップ作製（郷土を学ぶ会活動）	通年	会員数 3人

⑨施設管理事業

博物館として恒常的に適正な快適な施設環境を整備するために、本館及び屋外展示施設等の維持管理（修繕・工事・清掃・警備委託・緑地管理・各種点検業務・資料くん蒸・環境測定等）を行いました。

また、台風15号は施設に大きな被害を与えましたが、旧進藤家住宅をはじめ、古代復元住居、第5収蔵庫扉、万葉植物園の倒木については、早急に対応し、修繕を行うことができました。

博物館来館者が安心・安全に見学できるよう月1回の安全点検と消防署の協力を得て、旧進藤家で消火訓練を実施しました。

（3）博物館事業の総括

第2期教育ビジョンの目標である「明日を拓く 心豊かな たくましい 人づくり」の実現に向け、学校・家庭・地域の連携強化による地域の教育力の向上を図るとともに、郷土の歴史と文化の保存・継承に努めました。

総括は次のとおりです。

（1）地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。

博物館活動の原点である地域における調査研究と地域資料の収集・保存・管理に努め、市民の共有財産として次世代に継承します。

また、地域資料の調査研究の成果を各事業の開催により市民と共有します。

さらに、ホームページ・新聞等を活用して博物館活動を広くPRし、博物館の利用の促進を図りました。

（2）市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上に貢献します。

市民のニーズに応じた常設展示を部分的に更新するとともに、企画展や特別展を計画的に開催してきました。また、博学連携事業として小学校と連携して、子どもたちが日常的に活用し身近な場としての博物館活動をしてきました。

① 展示更新推進事業

企画展は、袖ヶ浦に生息する淡水の生物と水環境に着目した企画展Ⅰ「袖ヶ浦の水辺一人と生き物のくらし」と、地域史から見た戊辰戦争をテーマとした企画展Ⅱ「幕末維新の西上総ーおらがの慶応4年ー」を開催し、企画展Ⅱでは資料整理や古文書解読等に友の会や市民学芸員の協力を得ました。また企画展Ⅲとして（公財）千葉県教育振興財団主催による令和元年度出土遺物公開事業「eco生活事始め」を開催しました。また、それぞれの企画展開催中に展示解説会をはじめとした関連イベントを実施しました。

常設展示関係では、昨年度の企画展の成果をベースに近代コーナーの展示替えを実施し、展示室の有効活用と地元固有の財産の継承を図ることが出来ました。今後も更新計画を基に常設展示を考えていきたいと思えます。

② 教育普及事業

博物館講座「袖ヶ浦学」では、袖ヶ浦の歴史や史跡などを積極的に紹介・活用し、市民の関心を集めました。フィールド・アドベンチャーは、体験を通じて自然への関心が高まりました。自然と歴史の散策会は、博物館友の会との共催により、自然・歴史・文化を楽しく学ぶものとなりました。

また、新規事業として、国史跡山野貝塚への理解促進を目的に「初歩から始める大人

のための縄文講座」を4回（新型コロナウイルス感染拡大防止のため1回延期）開催しました。

③ 博学連携事業の充実

体験学習は、市民学芸員の協力で市内すべての小学校の受け入れができ、内容も充実しました。市外の学校からの体験学習は、教職員へ事前指導し、スタッフとして対応してもらうことで、実施しました。

課題としては、市民学芸員の高齢化により参加できる人材が固定化しているため、新たな市民学芸員等ボランティアの募集と育成が必要です。

④ 市民との協働

きめ細かな博物館活動（サービス）の展開を目指し、ボランティア活動による新たな学びの場を提供するとともに、市民相互交流を促すことを目的として活動を展開しています。市民学芸員は、自主企画展の企画・運営、ミュージアム・フェスティバル、博学連携事業、万葉植物園手入れ、資料管理支援等で活躍しました。また、特別休館による大規模な館内整理を市民学芸員との協働により実施し、大きな成果がありました。

博物館としては、新たな事業展開と市民学芸員の学習意欲向上のため、養成講座と2回のフォローアップ研修を実施しました。

(3)市民の生涯学習拠点としての安心・安全な施設を提供します。

9月に発生した大型台風により施設も甚大な被害を受けましたが、旧進藤家住宅台風災害復旧工事、倒木伐採剪定作業委託などの復旧作業を行い、安心安全な施設の維持に努めました。

また、昨年度策定した郷土博物館改修計画の結果をもとに、不具合が生じていた本館の空調設備について改修工事を行い、市民の皆様が訪れた時に快適な環境で館内をご覧いただけるよう施設環境の整備に心がけました。

さらに、老朽化した施設を予防保全することを目的として、施設点検マニュアルをもとに、施設の自主点検を実施しました。

(4)博物館としての独自性を追求します。

出前講座などアウトリーチ活動として、市民会館の子どもチャレンジ教室及び総合教育センターの夏休み調べ学習相談会など公民館・教育施設と連携・協力を図り、活動を支援しました。また、近接する根形公民館とは特に連携を強化し、根形公民館主催事業である成人絵画教室の作品展をアクアラインなるほど館で開催しました。

さらに、袖ヶ浦市外のコミュニティーセンターや、他団体が主催する講座の講師なども行い、職員の専門性を高めるとともに連携を図ることができました。

議題（１）郷土博物館の使命と評価について

1 経緯

平成20年6月に「博物館法」が改正され、同法第9条において運営状況について評価を行うとともに、その結果に基づき、博物館の運営の改善を図るため、必要な措置を講ずるよう努めなければならないことが定められた。さらに「公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準」においても、事業の状況を博物館協議会等の協力を得ながら、自ら点検・評価を行い、その結果を公表するように努めることが示されている。

そのような情勢を受けて袖ヶ浦市郷土博物館では、平成24年7月に『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく30の展望－』を策定した。その内容としては、博物館の4つの使命を遂行するための6つ分野の大きな活動目標を掲げ、今後博物館が目指す30項目の「あるべき姿」を示すとともに、それを達成するための、アクションプランを示した。

【参考】 博物館法条文

(運営の状況に関する評価等)

第九条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

(運営の状況に関する情報の提供)

第九条の二 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

2 博物館協議会での使命策定と点検・評価の経過

平成23年2月	博物館の地域戦略と使命に関する検討
平成23年7月	博物館の使命に関する共同研究の現状について 博物館の使命と評価に関する計画及び検討
平成24年2月	博物館の地域戦略と使命に関する検討
平成24年7月	『袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく30の展望－』策定
平成27年11月	「そではく30の展望」の点検と評価（H27博物館協議会）
平成28年2月	「そではく30の展望」の点検と評価（H27博物館協議会）
平成30年7月	「そではく30の展望」の点検と評価（H30博物館協議会）
令和元年	「そではく30の展望」の点検と評価（R1博物館協議会）

3 袖ヶ浦市郷土博物館の使命－そではく 30 の展望－

袖博は、地域の資（史）料を収集整理し、市民の共有財産として次世代に継承するとともに調査研究を推進し、市民のニーズに応じた常設展示の更新、企画展や特別展を計画的に行います。また、そこで得られた成果を市民・学校・社会教育機関・地域に発信し、連携することで地域文化の向上へ貢献します。さらに、生涯学習の拠点としての快適な学習環境を整えるため施設管理計画を立てるとともに、バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づき、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、次の4点項目を使命とします。

【使命】

- (1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。
- (2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上につくします。
- (3)市民の生涯学習拠点としての安心・安全な施設を提供します。
- (4)博物館としての独自性を追求します。

【活動目標】

(1)地域の資（史）料を守る－資（史）料の収集と保管－

地域資（史）料を継続的に収集整理し、市民の共有財産として適正な環境で保存管理します。また、市史編さん事業で収集・管理してきた史料を適正に保存管理できる収蔵庫を確保します。

(2) 地域を探り、発信する－調査研究の深化と革新－

地域資（史）料の調査研究を推進し、新たな価値を発見、創造し、その研究成果が市民の知的財産として活用されるように公表します。

(3) 学習・知的交流の拠点になる－展示更新と市民参画－

市民のニーズに応じた常設展示の更新計画を推進し、資料を身近なものとして捉えることができるとともに、新たな発見や気づきがあるような展示をします。また、企画展や特別展を計画的に開催し、市民の多様な学習意欲に応えるとともに、市民が自らの意志で参画できるような展示を企画します。

(4) 地域のつながりを活かす－地域連携の展開－

市民の多様な学習を支援するために調査研究や展示成果を発表し、市民が新たな価値を発見、創造できるような生涯学習の拠点とします。また、小・中・高等学校との連携により多種・多様なプログラムを開発し利用促進することで、子どもたちにより良い教育環境を提供します。

他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化し、地域の歴史や文化を深く理解する機会を推進します。

(5) 安心・安全な施設にする－改善と維持管理－

市民の快適な学習環境を整えるために定期的に施設の安全点検を行うとともに、施設の現状を把握し、メンテナンス・修繕・改修等の計画を立てます。また、バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づき、安全・安心で誰にも優しい施設をめざします。

(6)袖博らしさを追求するーマネジメント力の強化ー

周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場である袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開を図ります。また、博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるために博物館で必要となる新たな研究者や専門家の人材確保の契機にします。

(『袖ヶ浦市郷土博物館の使命ーそではく 30 の展望ー』平成 24 年 7 月より引用)

4. 郷土博物館事業実績値一覧

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	目標値 (H30)
入館者数(人)	64,965	74,880	71,900	56,438	60,815	58,439	
本館	31,417	36,120	33,811	34,460	34,755	30,210	32,500
なるほど館	11,842	13,347	12,189	12,501	13,554	11,337	
旧進藤家	21,706	25,413	25,900	9,477	12,506	16,892	
企画展開催回数 (回)	3	3	3	3	4	3	2 (継続事業含む)
企画展・特別展 入館者数(人)	19,452	19,509	19,295	25,301	25,251	24,691	21,000 (継続事業含む)
なるほど館ロビー 展(回)	9	11	9	8	10	10	6 (継続事業含む)
HP アクセス数 (件)	6,263	5,393	8,835	10,800	11,245	9,741	5,000
保存修復資料数 (点)	—	48	43	42	22	37	
館蔵資料データ ベース化(件)	1,400	880	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
収蔵資料デジタル 化(枚)	940	—	835	801		—	
資料保存箱製作 (個)	—	150	149	150	100	150	
市史研究刊行(号)	17	—	18	—	19		隔年刊行
資料購入(点)	—	—	—	1	8	11	
校外学習支援(校)	20	20	23	21	17	17	15
アウトリーチ活 動(件)	7	5	4	5	6	8	3
資料貸出し(点)	9	4	19	69	17	33	
学習相談(件)	46	18	10	14	7	6	

職場体験(校)	2	2	2	4	2	2	
福祉施設見学者数(人)	—	—	—	—	421	79	
博物館実習(校)	2	1	3	3	2	6	
博物館講座(回)	5	5	6	6	6	6	袖ヶ浦学
MF入場者数(校)	1,833	3,173	2,211	3,221	4,198		
市民学芸員数	30	28	33	34	34	35	
市民学芸員研修会(回)	—	—	—	—	2	3	
友の会会員数	54	56	61	64	69	69	
友の会だより発行(号)	39	40	41 臨時号	42 43	44 45	46 47	
上総掘り会員数	12	12	7	14	13	15	
協働事業実施回数	—	—	—	—	10	14	5 令和元年より指標
寄贈された資料	1,197	143	1	37	194	13件	

※MF：ミュージアム・フェスティバル アウトリーチ：出前授業、出前展示

5. 自己評価

『袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく30の展望—』に示された6つの活動目標を達成するために示した、30項目の「あるべき姿」に対して、「平成30年度の取り組み」、「成果・効果」、を踏まえて、自己評価したものである。

なお、評価にあたっては、下記の達成度で評価しているが、定数的な評価が難しい項目が多いため、主観的な達成度として示している。

◎目的（あるべき姿）に限りなく到達した項目

○目的にある程度達した項目

△取り組んだが目的に達しなかった項目

×取り組まなかった項目

令和元年度評価結果 ※（ ）は平成30年度との比較

◎：12項目（1増）

○：16項目（増減無）

△：2項目（1減）

×：0項目（増減無）

6. そではく30の展望評価結果

活動指標	あるべき姿	R1年度 評価	H30年 度評価
(1)地域の資(史)料を守る－資(史)料の収集と保管－	1.収蔵するすべての資(史)料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。	◎	◎
	2.市史編さん事業で収集・管理してきた史料群が適正に管理され、活用できる環境が整っている。	○	○
	3.収蔵資料は定期的に総点検され、保存(廃棄)・修復等が適正に行われている。	○	○
(2)地域を探り、発信する－調査研究の深化と革新－	1.市民のニーズを捉え、これにマッチした中長期的な調査研究テーマが設定され、調査研究が継続的に行われている。	◎	○
	2.収蔵資料に関する情報の追加・修正が恒常的に行われている。	○	○
	3.地域資料に関する情報が集積する場になっている。	◎	◎
	4.調査研究の成果が公開されている。	◎	◎
(3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と市民参画－	1.市民の意向に基づいた常設展示の更新計画があり、調査研究の成果が反映された展示となっている。	◎	◎
	2.利用者が身近なものとして資料を捉えることができ、新たな発見や気づきがあるような展示になっている。	◎	◎
	3.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっている。	◎	○
	4.企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えることや地域資料の有効活用が図られている。	◎	◎
	5.市民が自らの意志で参画し、常設展の更新や企画展などが開催されている	○	○
	6.情報機器が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。	◎	◎
	7.博物館に縁遠かった人びとを呼び込み、利用者層・数を拡大する工夫がこらされている。	◎	◎
	8.市民の知りたいこと、学びたいことをリサーチし、ニーズに応える形で講習・講座等が実施されている。	○	△
	9.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。	◎	◎
	10.図書資料の活用が図られるとともに、コピーサービスなどの体制がつくられ機能している。	△	△
	11.新旧住民の交流の場となり、文化の掘り起こしが行えるような工夫がある。	○	○
	12.市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。	○	○

	13.利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。	○	○
(4)地域のつながりを活かす —地域連携の展開—	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。	○	○
	2.博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。	○	○
	3.地域連携によって新たな価値が発見・創造され、その成果が発信されている。	○	○
	4.博学連携が効果的に機能し、子どもたちの学びがサポートされている。	◎	◎
	5.他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。	○	◎
(5)安心・安全な施設にする —改善と維持管理—	1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられている。	○	○
	2.バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づいて安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。	△	△
(6)袖博らしさを追求する —マネジメント力の強化—	1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場である袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。	○	○
	2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるための魅力的な活動が継続されている。	○	○
	3.市民と共に歩む博物館として認知され、高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家の人材の確保・育成ができている。	○	○

そではく30の展望

◎目的(あるべき姿)に限りなく到達した項目 ○目的にある程度達した項目
 △取り組んだが目的に達しなかった項目 ×取り組まなかった項目

活動目標	あるべき姿	令和元年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今後の対応
(1) 地域の資料を守る	1.収蔵するすべての資(史)料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫内の温湿度の日常的な環境管理 第1収蔵庫 25℃ 湿度60%以下 (26℃ 湿度63%) 第2収蔵庫 20℃、湿度55%前後 (25℃ 湿度54%) 第3収蔵庫 21℃前後 湿度55%前後 (25℃、湿度65%) ※()内は令和元年9月台風15号の停電時状況 ・収蔵環境調査 (6月から9月の間で2回) 結果：ゴキブリ・ヒメマルカツオブシムシの生息が館内各所で見られる 第1収蔵庫 蛍光灯の一部から紫外線が発生 第2収蔵庫 酸性傾向 ・特別休館による、収蔵庫内清掃、資料整理実施 令和元年12月17日～12月25日 ・資料燻蒸業務委託。これまで業者倉庫へ移送して燻蒸していたものをアクアラインなるほど館で実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な管理により適切に保管している。 ・冬季の環境調査をやめ、害虫の活動期である春から秋に2回の環境調査を実施したことにより、害虫の状況をより正確に把握することができた。 ・特別休館期間の資料整理により、資料の現状把握や清掃をすることができた。市民学芸員の協力も得ることができ、博物館と市民による協働で作業を進めることができた。 ・なるほど館で燻蒸を実施することでより多くの資料の燻蒸が可能になり、未燻蒸のため収蔵庫へ入れていなかった資料をまとめて燻蒸し、あるべき場所に収蔵することができた。作業室内に本来あるべき作業スペースができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫の温湿度を適正に管理するためには現状の空調機では老朽化による問題があり、注意が必要。 ・博物館の老朽化が著しく、資料を保存していくためには問題がある。 ・環境調査のトラップ等は、より実態に即した調査結果が得られるように再検討が必要。 ・収蔵庫が飽和状態にある。 ・市史編さん書庫が本来の使われ方をしておらず、デッドスペースが多くある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫の空調機は将来の新設へ向け、最新機器や導入事例等を調査する。 ・大規模改修工事が未定のため、保存資料に影響を与えないように最低限の改修は行っていく。 ・環境調査の内容について再検討するための調査、先進事例の情報収集。 ・書庫を含め、これまでの資料の収蔵方法を見直し、新たな収蔵スペースを確保する。
	2.市史編さん事業で収集・管理してきた史料群が適正に管理され、活用できる環境が整っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料保存箱(中性紙段ボール)を製作、新旧の保存箱の交換 (平成27年度～) 150箱製作 令和元年で終了 ・古文書等の表題データベース作成し、活用並びに情報公開に備えた。 年1,500件処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・保存箱製作については、計画通りではないが製作を進め、製作後は古文書の箱の入れ替えを行い、古文書の適切な管理を進めた。 ・古文書のデータベース化を進めた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・保存箱の入れ替え作業があまり進んでいない。 ・未整理の古文書分量を把握し、終了時期等を定め、計画的に進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保存箱の入れ替え作業を進める。 ・未整理の古文書の量を把握し、作業量と期間を算定する。
	3.収蔵資料は定期的に総点検され、保存(廃棄)・修復等が適正に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵資料の修復委託 ：平成22年度～旧奈良輪漁組文書 37点実施 658/1,132点 ：平成16年度～埋蔵文化財ポジフィルムのデジタル化 令和元年度は実施なし。 ：平成21年度～考古資料(鉄製品)の保存処理の業務委託(国庫補助事業) ※生涯学習課で実施 ・近年新たに収蔵した民俗資料のデータベース作成や台帳整備を行った。(臨時職員雇用) ・特別休館日を設け、収蔵庫2の資料の点検を行った。 令和元年12月17日～12月25日 	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財写真のデジタル化については、計画を見直して先送りすることとし、平成30年度は実施しなかった。 ・資料整理に専従する臨時職員を雇用したことにより、近年受け入れた民具の一部を把握とデータベース作成を進めることができた。 ・特別休館日を設け、収蔵庫2の清掃と点検を行うことができ、一部の資料の状況を確認できた。 ・清掃を行い、文化財害虫を確認することができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財写真のデジタル化委託については、限られた予算の中では、継続していくことが難しい。 ・修復資料の優先順位が定まっていなかったことや限られた予算の範囲内では1年に保存修復する点数が限られる。 ・近年受け入れた民具の整理の把握に時間を要する。 ・文化財害虫が発見されているため、管理に注意を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財写真デジタル化については、次年度に繰越して実施していくとともに、その手法についても検討する。 ・収蔵資料の保存修復は予算の範囲内で計画的に行っていく。 ・修復に必要な資料を把握するためにも、古文書等、収蔵資料の劣化状況の確認に努めていく。 ・近年受け入れた民具については、引き続き臨時職員を雇用し、データベース作成等台帳を整備していく。 ・年末に行った収蔵庫の清掃や整理作業については、継続的・計画的に行っていく。

活動目標	あるべき姿	令和元年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今後の対応
(2) 地域を探り、発信する	1.市民のニーズを捉え、これにマッチした中長期的な調査研究テーマが設定され、調査研究が継続的に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究の実施 山野貝塚に関する調査、袖ヶ浦市内の生物に関する調査、中世荘園に関する調査 収蔵資料の精査 	<ul style="list-style-type: none"> 企画展Ⅰは、市内の生物に関する調査の成果を展示に反映した。企画展Ⅱは、市史編さん事業で収集した古文書を精査することにより、眠っていた地域史にスポットを当て、史料に新たな価値を生成することができた。 山野貝塚については、継続して行っている調査研究の成果を縄文講座として市民に還元できた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 他業務等により職員の調査研究のための時間を確保や継続的に取り組んで行くことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究できる状況を確保できるように努めることやスクラップアンドビルドも検討する。
	2.収蔵資料に関する情報の追加・修正が恒常的に行えている。	<ul style="list-style-type: none"> 博物館ホームページ上で収蔵資料リストの公開 1,500件の古文書のデータベース化 臨時職員を雇用して民俗資料、歴史資料のデータベース化と台帳作成 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者がホームページを介して情報を得やすい環境をつくることができた。 新たな資料のデータベース化や台帳の作成を行い、検索や管理しやすい体制づくりを進めた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> HPで新たなデータが更新されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> データ更新をこまめに行うようにする。
	3.地域資料に関する情報が集積する場になっている。	<ul style="list-style-type: none"> 寄贈や資料購入などによる資料の集積 寄贈資料 13件 資料購入 絵画資料5点、古文書6点 『市史研究』の原稿として、研究者や市民から地域資料に関する研究成果を集めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 寄贈や購入などによる新規の資料・情報を収集・保管することができ、地域研究に資する資料の幅が広がった。 袖ヶ浦市内から流出した古文書を回収することができた。 市史研究の原稿や地域資料に関する研究成果が集まった。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 地域資料が博物館に集積する流れが広まっていない（周知されていない）。 近年、インターネットによる古文書の売買が盛んに行われている。袖ヶ浦市域からの流出例も増加しており、地域資料の散逸が懸念されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館から多くの人々に情報を提供し、地域資料の収集につなげる。 引き続き資料購入費を予算計上し、流出資料の回収に努める。
	4.調査研究の成果が公開されている。	<ul style="list-style-type: none"> 市史研究の原稿募集 企画展での調査研究成果が公開。 企画展Ⅰ「袖ヶ浦の水辺～人と生き物の暮らし～」 企画展Ⅱ「幕末維新の西上総ーおらがの慶応4年ー」 企画展関連事業による研究成果発表 袖ヶ浦学による地域研究成果発表。 縄文講座の実施による山野貝塚及び袖ヶ浦の縄文時代についての研究発表。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究の成果を展覧会として公開し、また、展示パンフレット・図録刊行により、市民及び来館者に情報を還元することができた。企画展Ⅰは自然・生物についての調査成果と古文書・民具等の調査成果が融合した内容となった。企画展Ⅱでは、寄贈・寄託により館で収集・保管している資料を精査することができた。 調査研究の成果を展覧会や市史研究の発刊などにより、市民及び来館者に還元することができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 市史研究の寄稿者に偏りが見られる。 調査研究の成果は展覧会や市史研究などの紙面だけでなく、博物館ホームページでも公開し、だれもが学べる機会を提供する必要がある。 袖ヶ浦学は、専門職員の研究成果発表の場として、より活用されるべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣市の在住の研究者等に寄稿を呼び掛け、市史研究のレベルアップをはかる。 調査研究成果の情報公開手段を紙面に限らず様々な方面から検討する。 地域課題を調査し、袖ヶ浦独自のテーマをピックアップしていく。
1.市民の意向に基づいた常設展示の更新計画があり、調査研究の成果が反映された展示となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示の通史展示を部分的に更新、調査研究の成果の一環として企画展を開催した。 前年開催の企画展の成果を常設展示（近現代）に活用した。 常設展示資料を企画展展示資料に位置づけ、活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示の更新や調査研究成果を活かした企画展などにより、新たな情報を利用者に提供することができた。 企画展のための調査研究成果を常設展示に還元できた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 展示に対する市民の意向を把握していない。 第3次展示基本構想が停止したままとなっており、改修計画とあわせて検討する必要がある。 上総掘り展示室の展示更新を長期間行っていない。 体験学習用に昔の生活道具を展示している情報提供室について、現在の子どもたちにとって、もう少し身近な昔（祖父母の子供時代など）の展示も検討すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートなどにより見学者の意向を調査する。 引き続き調査研究の成果を常設展示の展示更新に活用していく。 上総掘りの展示室について、近年の上総掘り技術伝承研究会の活動成果も踏まえ、更新を図る。 1980年代などのちょっと昔の展示を検討する。 	

活動目標	あるべき姿	令和元年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今後の対応
(3) 学習・知的 交流の拠 点になる	2.利用者が身近なものとして資料を捉えることができ、新たな発見や気づきがあるような展示になっている。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の資料を展示することで、身近なものとして捉えられるよう工夫した。 企画展の開催による新たな価値の創造 企画展Ⅰ 自然資料・生体の展示により、郷土博物館が扱うジャンルと展示の可能性を拡大した。 企画展Ⅱ 幕末という人気の時代に館収蔵の地域資料を位置づけし、価値を付加した。 	<ul style="list-style-type: none"> これまであまり取り扱ってこなかった自然資料や生体の展示により、利用者に博物館の身近さをアピールできた。 地域資料を展示し、日本史・世界史の中に位置づけることで、利用者の知らなかった地域の重要な資料や情報を提供し、その価値を伝えることができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が資料に関心を持ち、身近なものとして捉えるためには、アンケート等で市民のニーズをうかがうだけでなく、まず職員それぞれが、収蔵資料をはじめとした地域資料について精査を続け、袖ヶ浦の魅力ある事象についてこれまで以上に見識を深める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務の中で館内研修を行うなど、職員が袖ヶ浦について知る・研究する時間を多く設けるようにする。 アンケート等による市民ニーズの把握については、今後も継続して行っていく。
	3.展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっている。	<ul style="list-style-type: none"> 展示パネルは文字の大きさや読みやすさを重視し、記載内容もわかりやすくなるよう心掛けた。 企画展チラシ・パンフレット・図録について、利用者に対し、展示内容理解の補助となるよう意識して作成した。 常設展示は、利用者も経験したことのある新しい時代や人気の時代、身近な地域資料といった利用者の共感を得やすいものを選定して展示替えした。 	<ul style="list-style-type: none"> 企画展印刷物は、展示内容の理解を促進するのに有効であったと見られ、売り上げも好調であった。 展示内容に共感度を高めたことにより、展示を見た人からのリターン（情報提供など）といった双方向性が見られた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の共感を得やすい時期（昭和40年代以降など）の資料を展示に増やす必要がある。 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加体験型の展示ができない傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1980～90年代といった親世代の青春時代の資料を多く収集し、親子や家族で楽しめ、世代間交流に貢献できる展示を行い、見学した人からのさらなる情報提供をめざす。 新しい生活様式のもとで可能な双方向性展示について、調査研究を進める。
	4.企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えることや地域資料の有効活用が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> 年2～3回の企画展に加え、トピックス展示やロビー展を話題性に応じて開催した。 令和元年度企画展3回、アクアラインなるほど館ロビー展10回（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期の1回含む） 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資料を有効活用した企画展の開催により、袖ヶ浦市の新たな側面や魅力を市民にアピールし、学習意欲の向上にも貢献できた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 職員の世代交代が進行しており、市民の学習意欲にグローバルに対応できる職員の育成が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民の多岐にわたる学習意欲に応え続けるためには、若手職員の調査研究及び学習の時間を多く設ける必要がある。
	5.市民が自らの意志で参画し、常設展の更新や企画展などが開催されている。	<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員や友の会が企画したロビー展をアクアラインなるほど館で行った。 ：袖ヶ浦ナイススポット再発見！ 3/23～4/14（継続） ：万葉集、花と樹の歌 ～市民学芸員・瀧良子植物画の世界～ 6/22～7/15 ：盆栽展 11/2～11/4 ：ソデフローラⅦ 植物画展 11/19～12/15 ：にっぽんの郷土風 1/8～2/2 ：写真展 馬に乗った観音様 3/20～5/10（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期） 	<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員自らが展示を企画することで学習意欲の向上を促し、成果を上げることができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 過去に行っていたような市民学芸員の大規模な企画展を行っていない。市民学芸員の高齢化により、特別展示室を使用した展示を検討・実施する余力のある市民学芸員が減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員全体会議や定例会などで今後の企画展等について検討する。 市民学芸員養成講座の内容を充実させ、企画・展示ができる市民学芸員を育成するとともに現在在籍している市民学芸員の育成にも力を入れる。
	6.情報機器が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新、市ホームページやSNS利用し、情報提供を積極的に行った。 ホームページアクセス件数 9,741件 新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館により期間途中で中止となったアクアラインなるほど館ロビー展示「平安時代の〇〇村」をユーチューブ配信した。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報伝達手段を増やすことで多くの人々に発信することができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの内容に博物館らしさが少ない。 データの更新などに時間を要する。 展示に多言語対応ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ユーチューブなどを効果的に活用する。 博物館としての情報を求めてホームページを検索した人が満足できるように、コラム等を取り入れホームページの内容を充実させる。 展示の多言語化を進める。

活動目標	あるべき姿	令和元年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今後の対応
7.博物館に縁遠かった人びとを呼び込み、利用者層・数を拡大する工夫がこらされている。		<ul style="list-style-type: none"> ミュージアム・フェスティバルや市民学芸員子どもの日イベント等、各種教育普及事業を開催し、来館しやすい状況を提供した。 ミュージアム・フェスティバル 4,198人 フィールド・アドベンチャー（3回） 66人 こどもの日イベント「市民学芸員と遊ぼう！」 597人 	<ul style="list-style-type: none"> ミュージアム・フェスティバルや子どもの日イベントでは、通常利用の少ない親子連れが多く参加し、博物館を知り、博物館ならではの体験をするなどの成果が認められた。 ミュージアム・フェスティバルはこれまでの実績により認知度が高まり、リピーターが増加している。 ミュージアム・フェスティバルの貝輪作りは新たなコーナーとして定着した。 イベントなどを開催することにより、袖ヶ浦公園を利用する親子連れが、博物館を気軽に利用するようになった。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 博物館に来館しない人々のニーズを掘り起こし、体験イベント以外の講習・講座を実施する必要がある。 博物館に全く来ない人・来たことのない人へのアピール方法を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験イベントでの集客で満足するのではなく、博物館らしい個性のある講座なども充実していくように努める。 広報・周知の方法について、さまざまな媒体を活用できるようにする。
8.市民の知りたいこと、学びたいことをリサーチし、ニーズに応える形で講習・講座等が実施されている。		<ul style="list-style-type: none"> 展覧会やイベント等でアンケート調査を実施して要望の把握に努め、公民館や他地域の博物館等と情報共有を行い、市民にどのような講座が求められているのかりサーチした。 	<ul style="list-style-type: none"> 記述の多いアンケートを実施することにより、個人が考えている要望とそのバックグラウンドを合わせて調査し、傾向と対策を分析することができた。 他の社会教育施設の状況を知ることで、博物館には来ない人の傾向と要望を推測することができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果が活用しきれていない。 アンケート等に記された市民ニーズを丸呑みするのではなく、それを活用してさらに上の講座等を目指すには、対応する職員にも高い経験値が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートは引き続き実施する。 公民館・図書館等、他の社会教育施設の講座や他の博物館の講座に参加するなど実体験に基づいた調査をする。 常に市民よりも上の知識を持てるように、職員が学ぶ意識を持ち続ける。
9.さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。		<ul style="list-style-type: none"> 博物館ホームページ、市ホームページ・ツイッター・テレビ撮影を利用したPR活動や情報提供。 新聞、地域紙、テレビ撮影等の媒体を活用した情報掲載 	<ul style="list-style-type: none"> メディアの種類を増やすことでより多くの人にPRすることができた。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> PR活動や普及事業などにより市内での認知度は高まったが、利用したことのない市民も未だ多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの市民が目に触れるようなメディアで取り上げられるために、積極的なPR活動を進める。 来館につながった人々が利用したメディア等について分析を行う。
10.図書資料の活用が図られるとともに、コピーサービスなどの体制がつけられ機能している。		<ul style="list-style-type: none"> 市内小学校の物流ネットワークによる蔵書や資料等などの貸出サービス 図書・資料等の貸出 4件37点 図書室での図書閲覧やコピーサービス 図書室利用者 10名 コピーサービス 74件 	<ul style="list-style-type: none"> 物流ネットワークによる資料の貸出の体制を利用できた。 図書のコピーサービスや図書利用などの活用を図れた。 	△	<ul style="list-style-type: none"> 物流ネットワークを整備されているものの、昨年に引き続き、利用が促進されていない。 図書室が閉室のため、利用しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育のニーズを把握するように努め、物流ネットワークを活用できる体制を整える。 図書室常時開室へ向けて検討する。
11.新旧住民の交流の場となり、文化の掘り起こしがおこなえるような工夫がある。		<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員主催のこどもの日イベントやお飾り作り教室、友の会の凧揚げ会等は、伝統を教える旧住民と学ぶ新住民という形での交流が見られる。 市民学芸員や友の会の会員内では、新旧住民間の交流も促進されている。 区長に声をかけてもらい、ミュージアム・フェスティバルに下新田区が参加して、野菜販売を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員や友の会といった市民組織において、新旧住民の交流ができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 博物館事業としては、主として新旧住民交流を意識した事業の取組は行っていない。 旧住民は博物館事業への参加が少ない傾向がある。博物館事業への参加に地域差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新旧住民交流を意識した取り組みを検討する。 旧住民の多い地域、博物館事業への参加が少ない地域の住民が関心を持ちやすい内容を検討し、周知を徹底する。
12.市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。		<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員や友の会の活動を通して、博物館事業に市民が参画し、体験学習の支援やミュージアム・フェスティバルでの役割を担っている。 市民学芸員 35名 博物館友の会 64名 (令和2年6月末現在) 	<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員や友の会会員などの地域の人々が博物館活動に参画することで、事業運営の原動力となっている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 市民学芸員や友の会会員が参画する体制はあるが、一般市民が気軽に参加する体制が構築されていない。 参加する市民の固定化や高齢化が進んでいる。 継続のための工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館活動についての情報公開をこまめに行い、博物館内部をオープンにすることにより、利用者が単独で気軽に参画できる体制を検討する。

活動目標	あるべき姿	令和元年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今後の対応
	13.利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。	<ul style="list-style-type: none"> 「そではくのもり」について、継続して整備を行った。 アクアラインなるほど館のロビーを交流スペースとして活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> そではくのもりにリピーターもできた。 アクアラインなるほど館での休憩目的の利用者もいる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用者同士の交流は当面勧められない。 アクアラインなるほど館については、換気ができないため当面休館を余儀なくされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい生活様式のもとで可能な利用者交流について、先進事例を調査し、検討する。
(4) 地域のつながりを活かす	1.袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。	<ul style="list-style-type: none"> 各種情報の管理と各種問い合わせに応じた対応 各種問い合わせ 13件 調査研究やその成果の展示活動を行い、刊行物などによる情報公開 調査研究、企画展・ロビー展等の開催、企画展パンフレット刊行、市史研究等の研究成果の発表等 	<ul style="list-style-type: none"> 市民が新たな価値を発見し、新たな学びの目的を創造できるような生涯学習の拠点となり、地域の歴史や文化を深く理解する機会を提供することができた。 市内に限らず市外、県外からの利用者に対して、袖ヶ浦市内の歴史・文化の有効な情報を提供できた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 資料や情報の整理が不完全である。 専門職員が足りず、対応が後回しになることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域資料や情報の整理及び把握に努める。 簡単な質問について誰でも対応できるように、資料を作成する。
	2.博物館が学びの拠点となって地域とつながるシステムが構築されている。	<ul style="list-style-type: none"> 年2～3回の企画展、ロビー展及び関連事業の実施。 袖ヶ浦学などの講座を開催し、学びの拠点となった。 博物館を拠点とする団体が一体となって、教育普及事業を実施した。 ミュージアム・フェスティバル こどもの日イベントなど 博物館を拠点として活動している団体による地域貢献 友の会 新春風揚げ会 友の会古文書いろはの会 企画展Ⅱへの史料読解等協力 友の会盆栽の会 盆栽展開催時の盆栽教室実施 市民学芸員郷土を学ぶ会 公民館講座への出前講座 市民学芸員葉月の会 植物画講座 公民館との連携の促進 根形公民館成人絵画教室作品展開催 公民館講座等への出前講座 	<ul style="list-style-type: none"> 企画展や講座などの開催により、学びの拠点となった。 友の会・市民学芸員の活動により地域の団体との連携を深めることができた。 市民学芸員の活動も含め、公民館講座等で博物館の研究成果を発表することが出来た。 直近の公民館である根形公民館とは相互協力ができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 博物館を利用する団体相互の連携については、あまり進んでいない。 公民館講座への出前はあるが、公民館サークル等による自主的な博物館利用は確認できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館を利用する機関・地域・団体等団体の連携を博物館がサポートする。 根形地区については、博物館を中心に袖ヶ浦公園・根形公民館といった施設が一体化して、学びと楽しみの拠点となるようにイメージを構築する。 公民館・図書館との連携をさらに促進する。
	3.地域連携によって新たな価値が発見・創造され、その成果が発信されている。	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携モデルの一試案として、根形公民館との連携を強化した。 前年度に作成した「行ってみようマップ」を活用し、博物館を中心とした根形地区散策を奨励した。 フィールドアドベンチャーや夏の単発イベントで袖ヶ浦公園を活用した。 	<ul style="list-style-type: none"> 根形公民館成人絵画教室作品展をアクアラインなるほど館で開催することにより、新たな来館者を獲得することが出来た。 多くの人に、根形地区の文化財や魅力について知ってもらい、博物館が文化の拠点であることも印象付けることができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> 根形以外の地区とも、公民館を媒介に連携していく必要がある。 袖ヶ浦公園を活用しきれていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 根形地区については、さらなる連携モデルを推進する。 各公民館との連携を強化する。 市民学芸員郷土を学ぶ会が作成した「袖ヶ浦散策」を活用し、各地域との連携を深める。 袖ヶ浦公園のさらなる活用方法を検討する。
	4.博学連携が効果的に機能し、子どもたちの学びがサポートされいる。	<ul style="list-style-type: none"> 小学校3年生、6年生の校外学習支援 出前事業や実物資料、教材の貸し出し、教育カリキュラムに応じたアウトリーチの実施 教員の修の受け入れや教育カリキュラム相談 小中学生の調べる学習への支援 教員経験者を社会教育指導員として配置し、博学連携事業に多く参加してもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館が学びの場として市内の子どもたちに利用され、教科書では得ることのできない実物資料や、より深い知識を獲得する教育環境を提供し、活用された。 教員経験者が博物館職員として博学連携に関わることで、学校側の視点を理解しやすくなり、より博物館の意図が子どもたちに伝わりやすくなった。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> 市外の学校については、対応する職員人員や体制が整わないため、市内小学校と同じ対応ができていない。 学校・教員側の事業へのかかわりが浅くなってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 市外小学校からの依頼については、資料を貸出しするとともに、指導方法等を教員へ周知して対応してもらおう。 事前打ち合わせ等で教員等に博学連携や体験学習の趣旨や教員の役割について理解してもらおう。 博物館側も指導要領や教材等の研究を行い、学校側の実情について理解を深める。

活動目標	あるべき姿	令和元年度の取り組み	成果・効果	評価	課題	今後の対応
	5.他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外施設や機関へ講師等の派遣 9件（うち市民学芸員3件） ・君津地方公立博物館協議会へ参加 研修会、合同調査など広域地域連携の実現を図った。 ・博図公連携事業へ参加 ・企画展Ⅰ、フィールドアドベンチャーにおけるNPOとの連携。 ：しいの森ホテル観察会（椎の森里山会） ：自然観察会～谷津田の生き物を見てみよう～（上総自然学校） 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育機関や他市博物館と連携を深めることができた。 ・椎の森里山会・上総自然学校との連携により、魅力ある事業が実施でき、博物館の可能性も広がった。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に地域の企業やNPOとの連携は図れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業やNPO等へアンケートを実施し、相手側のニーズについて調査するとともに、博物館の意向についてアピールする。
(5) 安心・安全な施設にする	1.管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な施設、設備の点検の実施及び修理の実施 ・急な故障や破損等の修繕 ・月1回の安全点検の実施 ・個別施設計画の策定 ・台風15号被害個所への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化や設備の故障等については、それぞれ予算の範囲内で対応し、不具合を改善した。 ・博物館施設や設備の老朽化や不具合について調査を行い、修繕・改修の優先順位を把握し、対応について検討した。 ・台風15号による被害個所については迅速に対応した。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館施設の長寿命化へ向けた個別施設計画が策定されたが、展示リニューアル等の位置づけがないため、現実的でない ・年々、施設の老朽化が進んでおり、対応に苦慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示リニューアルも含めた大規模改修工事が実施できるよう庁内で調整をはかる。
	2.バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づいて安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者施設、高齢者施設の団体受入れを積極的に進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者からは好評であり、リピーターも多く獲得した。 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・館全体的なユニバーサルデザイン計画がない。 ・本館入口のドアが重く、高齢者や子どもには利用しづらい。 ・多言語化対応ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザイン設計を進めている博物館等の先進事例を調査していく必要がある。 ・多言語化については、可能なことから対応を進める。
(6) 袖博らしさを追求する	1.周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場である袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド・アドベンチャーによる袖ヶ浦公園における野鳥観察 フィールド・アドベンチャー「冬の野鳥観察会 ～上池の鳥たち～」2/23 ・夏の単発イベント「ジュニア学芸員講座」の袖ヶ浦公園周辺での実施 ・袖ヶ浦公園管理組合が実施する「動植物観察会」への事業協力による連携 ・関係団体と連携により、植物やホテルの観察会などの事業実施（袖ヶ浦公園以外） 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールド・アドベンチャーでは、袖ヶ浦公園内にあるという立地を生かした企画や袖ヶ浦公園管理組合のほか、関係団体と連携した取り組みを実施することにより、歴史系の事業だけではなく、自然系事業など魅力ある事業展開を行うことができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や研究機関と連携して事業展開が図れていない。 ・袖ヶ浦公園については、さらなる活用について検討の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や研究機関との連携について検討する。 ・袖ヶ浦公園を活用した魅力ある企画を検討する。 ・他機関との連携について、先進事例なども調査する。
	2.博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるための魅力的な活動が継続されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民学芸員の地域の歴史や文化財の調査への活動支援 ・企画展Ⅱ関連事業としてのバスツアーを通じたフィールドワークの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民とともに調査を行うことにより、市民への文化財保護の意識向上につながった。 ・バスツアーという気軽に参加しやすい事業を通して、地域への関心を高めることができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究について、博物館と市民が一体となった活動が行われていない。 ・テーマを絞った継続的な講座や活動が行われていないので、歴史の解明や深化まで至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護活動に対して市民が積極的に参画できるような講座を企画し、次のステップとして博物館とともに研究できるような人材を育成する。 ・公民館講座との連携を進める。
	3.市民と共に歩む博物館として認知され、高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家の人材の確保・育成ができてきている。	<ul style="list-style-type: none"> ・専門研究者から袖ヶ浦市史研究への寄稿 ・調査においての新たな研究者による助言 ・博物館実習生の受け入れによる学芸員後継者育成 博物館実習生 6名 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館の調査研究活動を共に行える研究者や人材との協力体制を作ることができた。 ・専門的な見地から助言をいただき、博物館活動に良い効果を得ることができた。 ・次代を担う新たな学芸員を育成することができた。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した研究体制ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも地域の新たな人材を掘り起こしていくとともに、大学などの研究機関と連携を深め、博物館活動への協力を求めていく。

		現在の 主担当	通年事業、 日程未定事 業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
博物館協議会			年3回開催				16(木)第1回				第2回				第3回
教育普及事業	ミュージアム・フェスティバル		年1回開催	第1回実行委員会(3月実施)書面会議	第2回実行委員会※延期	6(土)・7(日)※延期 第3回実行委員会※延期									
	講座 袖ヶ浦学		年6回開催	第167回袖ヶ浦学 「弥生時代の稲作―袖ヶ浦市文蔵遺跡稲実任農の分析から―」(友の会共催)※延期			第168回袖ヶ浦学(自然観察関連)※延期		第169回袖ヶ浦学※延期	3(土)第157回袖ヶ浦学「西上総の馬乗り馬頭観音」	第160回袖ヶ浦学(企画展関連)※延期	第161回袖ヶ浦学(市史研究発行関連)※延期			第162回袖ヶ浦学※延期
	博物館学芸員実習		前年度12月頃に受け入れ要項作成		・大学からの実習依頼文 ・回答		実習予定表作成・送付	8/18(火)～8/28(日)(10日間) 博物館実習 大学宛評価表送付							
	その他						山野貝塚関連事業 4(土)18(土)根形公民館 地域再発見講座	22(土)ジュニア学芸員養成講座		24(木)西上総文化会横田 郷散策・館内見学 山野貝塚関連事業		山野貝塚関連事業(文化財散策)		山野貝塚関連事業	
博学連携事業	校外学習支援等		体験学習支援 学習相談対応 資料・図書貸出			19日(金)根形小6※延期 24日(水)奈良輪小6	14日(火)長浦小6								
	出前授業・展示		アウトリーチ 出前展示の実施		9日(水)蔵波小6土器※6月に延期	23(火)蔵波小6土器・山野貝塚・地域の遺跡 6月下旬～7月上旬―長浦小6―事前ガイダンス	7(火)昭和小6土器・古墳 10(火)昭和小6坂戸神社 古墳見学 4日(水)平岡小6平岡地区 8日(水)中川小6横田郷※9月に延期		3(木)中川小6横田郷						
	その他														
展示更新推進事業	特別展・企画展		企画展年3回開催	4/11(金)～6/14(日)企画展Ⅰ「ごほんの作り方」※10月に延期			7/18(土)～8/30(日)市民学芸員郷土を学ぶ会主催 写真展「馬に乗った観音様―わがまちにも―」			10月3日(土)～R3年2月11日(日)企画展Ⅱ「ごほんの作り方」 企画展Ⅲ「海の民」→R3年度 市制施行30周年記念特別展「かつて見た袖ヶ浦の海」へ延期・変更					企画展Ⅳ「中島敬明展」
	アクアラインロビー展示		年6回開催	アクアラインなるほど館の再開時期について現時点で未定のため、ロビー展も未定											
	トビックス展 ミニ展示			(ソデフローラⅧ)											
	その他			(ごほんの郷土風)											
地域資料管理活用事業	資料管理活用		・収蔵資料保存 管理活用 ・資料燻蒸 ・環境調査委託			環境調査(1回目)									
	史料修復 奈良輪漁協					史料修復委託執行同意・契約									
	『市史研究』第20号		要項整備・原稿募集			編集作業	編集作業	編集作業	入稿	校正	刊行				
	広報		・博物館HP運営 ・市広報 ・その他メディア対応												
市民学芸員			体験学習支援 自主企画展企画 ほか ・万葉グループ 第3土曜日上午活動(万葉植物園) ・植物画グループ 第3土曜日下午活動(体験学習室)	18(土)市民学芸員養成講座④※7月に延期 18(土)全体会議※延期 18(土)第2グループ・葉月の会(植物画)	5(日)子どもの日イベント 16(土)第2グループ・葉月の会(植物画)	6(土)・7(日) ミュージアム・フェスティバル※延期 20(土)第2グループ・葉月の会(植物画)	18(土)市民学芸員養成講座①オリエンテーション 18(土)第2グループ・葉月の会(植物画) 31(金)市民学芸員養成講座②博物館の仕事を見よう「バックヤードツアー」	19(水)市民学芸員養成講座③IPMについて学ぼう(博物館実習と合同)	19(土)第2グループ・葉月の会(植物画) 17(土)第2グループ・葉月の会(植物画) 13(金)フォローアップ研修(バス移動講座) 21(土)第2グループ・葉月の会(植物画) 21(土)市民学芸員養成講座⑨グループ活動参加(2)(3)万葉グループ・葉月の会の活動を見よう	3(土)十五夜コンサート 17(土)第2グループ・葉月の会(植物画) 13(金)フォローアップ研修(バス移動講座) 21(土)第2グループ・葉月の会(植物画) 21(土)市民学芸員養成講座⑨グループ活動参加(2)(3)万葉グループ・葉月の会の活動を見よう	6(金)市民学芸員養成講座⑧よその博物館を見に行こう(バス移動講座) 19(土)第2グループ・葉月の会(植物画) お飾りづくり	16(土)第2グループ・葉月の会(植物画) 16(土)市民学芸員養成講座⑩お楽しみクエスト企画(講座生のリクエストで内容を決めます)	20(土)第2グループ・葉月の会(植物画) 20(土)市民学芸員養成講座⑪修了式・記念講演会(フォローアップ研修と合同)	20(土)第2グループ・葉月の会(植物画) お雛様飾り	
	友の会		7グループ(仏像を学ぶ会、何でも有り会、土器作りの会、麻の会、古文書いろいろの会、機織りの会、盆栽愛好会)活動 自然と歴史の散策会ほか	26(土)総会・記念講演会※総会は書面会議、記念講演会は延期 第2・4金曜日古文書いろいろの会 毎週水曜日機織りの会	4(金)千葉県主催「かすかの画麻あげフェスタ」 第2・4金曜日古文書いろいろの会 毎週水曜日機織りの会	第1回自然と歴史の散策会(市大型バス利用) 第2・4金曜日古文書いろいろの会 毎週水曜日機織りの会 6(土)・7(日)ミュージアム・フェスティバル	第2・4金曜日古文書いろいろの会 毎週水曜日機織りの会	第2・4金曜日古文書いろいろの会 毎週水曜日機織りの会	第2・4金曜日古文書いろいろの会 毎週水曜日機織りの会	第2回自然と歴史の散策会 第2・4金曜日古文書いろいろの会 毎週水曜日機織りの会	第2金曜日古文書いろいろの会 第2・4金曜日古文書いろいろの会 毎週水曜日機織りの会	新春風揚げ大会 第2・4金曜日古文書いろいろの会 26日(火)第2回役員会 毎週水曜日機織りの会	第2・4金曜日古文書いろいろの会 26日(火)第2回役員会 毎週水曜日機織りの会	第2・4金曜日古文書いろいろの会 毎週水曜日機織りの会	
上総掘り技術伝承研究会		定例活動日 毎週日曜日・又は土曜日(雨天中止)	定例活動 総会	定例活動	定例活動 6(土)・7(日) ミュージアム・フェスティバル※延期	定例活動	定例活動	定例活動	定例活動	定例活動	定例活動	定例活動	定例活動	定例活動	定例活動
その他 教育機関行事予定			4(土)袖ヶ浦公園まつり			4(土)青少年健全育成推進大会・市民三学大学①(市民会館)中止 27(火)スポーツ大会 29(木)おんぼく④ 30(金)おんぼく② 31(土)おんぼく③ 中止	4(木)おんぼく④ 24(金)おんぼく⑤ 3(土)おんぼく⑥(市民会館) 18(火)袖ヶ浦公園動物観察会	5(土)山野貝塚ボランティア養成講座①	24(土)山野貝塚ボランティア養成講座② 未定(土)市民三学大学②(市民会館)	2(土)・3(日)公民館まつり(市民、根形、平岡) 9(土)・10(日)公民館まつり(長浦、平川) 28(土)山野貝塚ボランティア養成講座③	20(日)市民三学大学③(市民会館)	10(日)市内成人式	6(土)山野貝塚講演会(山野貝塚ボランティア養成講座④) 13(土)生涯学習推進大会・市民三学大学④(市民会館)	6(土)山野貝塚ボランティア養成講座⑤	
休館日 (月曜以外)			30(木)	7(木)					23(水)		4(水) 24(火)	26(土) 27(日) 29(火) 30(水) 31(木)	1(金) 2(土) 3(日) 12(火)	12(金) 24(火)	

令和2年度第1回袖ヶ浦市郷土博物館協議会
議題1 別冊資料

袖ヶ浦市郷土博物館の使命 －そではく30の展望－

取組状況

活動目標

- (1)地域の資(史)料を守る－資(史)料の収集と保管－ 1
- (2)地域を探り、発信する－調査研究の深化と革新－ 4
- (3)学習・知的交流の拠点になる－展示更新と市民参画－ 7
- (4)地域のつながりを活かす－地域連携の展開－ 13
- (5)安心・安全な施設にする－改善と維持管理－ 16
- (6)袖博らしさを追求する－マネジメント力の強化－ 18

そではく 30 の展望 取り組み状況

I 活動目標	(1)地域の資(史)料を守る－資(史)料の収集と保管－																			
II あるべき姿	<p>(1) 収蔵するすべての資(史)料が市民の共有財産として認められ、適正な環境で保存管理されている。</p> <p>(2) 市史編さん事業で収集・管理してきた史料群が適正に管理され、活用できる環境が整っている。</p> <p>(3) 収蔵資料は定期的に総点検され、保存(廃棄)・修復等が適正に行われている。</p>																			
III 令和元年度の取り組み内容	<p>(1) 資料を保存するため、収蔵庫内の温湿度の日常的な環境管理を行った。</p> <p>第2収蔵庫は24時間空調機器管理。第1・3収蔵庫は必要に応じて湿度調整(第3収蔵庫は必要に応じて空調機器管理も行う。)</p> <table><tr><td>第1収蔵庫</td><td>25℃</td><td>湿度60%以下</td><td>(26℃</td><td>湿度63%)</td></tr><tr><td>第2収蔵庫</td><td>20℃</td><td>湿度55%前後</td><td>(25℃</td><td>湿度54%)</td></tr><tr><td>第3収蔵庫</td><td>21℃前後</td><td>湿度55%前後</td><td>(25℃</td><td>湿度65%)</td></tr></table> <p>※()内は台風15号の停電時状況</p> <p>・日常的な環境管理を行うとともに、6月から9月の間で2回の収蔵環境調査を実施した。</p> <p>結果：ゴキブリ・ヒメマルカツオブシムシの生息が館内各所で見られる</p> <table><tr><td>第1収蔵庫</td><td>蛍光灯の一部から紫外線が発生</td></tr><tr><td>第2収蔵庫</td><td>酸性傾向</td></tr></table> <p>・特別休館による、収蔵庫内清掃、資料整理を市民学芸員の協力を得て実施し、収蔵庫内での資料の適正な管理に努めた。</p> <p>実施期間 令和元年12月17日～12月25日</p> <p>・資料燻蒸業務委託は、これまで業者倉庫へ移送して燻蒸していたものをアクアラインなるほど館で実施した。</p> <p>・新たに収蔵した資料については燻蒸委託を行い、収蔵庫で保管できるようにした。</p> <p>(2) 古文書などの適切な管理を行うため、平成27年度から資料保存箱(中性紙段ボール)を計画的に製作し、新旧の保存箱を交換するなどを行った。</p> <p>150箱製作 令和元年度で終了</p> <p>・『袖ヶ浦市史料目録』刊行以降に寄贈を受けた古文書等の表題データベース作成</p>	第1収蔵庫	25℃	湿度60%以下	(26℃	湿度63%)	第2収蔵庫	20℃	湿度55%前後	(25℃	湿度54%)	第3収蔵庫	21℃前後	湿度55%前後	(25℃	湿度65%)	第1収蔵庫	蛍光灯の一部から紫外線が発生	第2収蔵庫	酸性傾向
第1収蔵庫	25℃	湿度60%以下	(26℃	湿度63%)																
第2収蔵庫	20℃	湿度55%前後	(25℃	湿度54%)																
第3収蔵庫	21℃前後	湿度55%前後	(25℃	湿度65%)																
第1収蔵庫	蛍光灯の一部から紫外線が発生																			
第2収蔵庫	酸性傾向																			

を進め、活用並びに情報公開に備えた。

年 1,500 件処理

(3)・収蔵資料を適切に保存するため、修復委託等を進めた。

：平成 22 年度から旧奈良輪漁業組合文書の保存修復を継続的に実施している。

37 点実施 658/1,132 点（計画変更につき終期末定）

：埋蔵文化財ポジフィルムの劣化の恐れがあるため、平成 16 年度から継続的にデジタル化による写真情報の保存に努めてきたが、平成 30 年度・令和元年度は実施していない。

：博物館で所蔵する考古資料の鉄製品については、劣化を防ぐための保存処理の業務委託を平成 21 年度から計画的に実施している。（生涯学習課で実施）

※国庫補助事業

・近年寄贈等により新たに収蔵した民俗資料を把握するため、臨時職員を雇用し、データベース作成や台帳整備を行った。

・特別休館日を設け、収蔵庫 2 の資料の点検を行った。

実施期間 令和元年 12 月 17 日～12 月 25 日

IV 自己評価

◆成果・効果

(1)・収蔵庫の環境を日常的に管理しているため、資料を適切に保管していると言える。

・冬季の環境調査をやめ、害虫の活動期である春から秋に 2 回の環境調査を実施したことにより、害虫の状況をより正確に把握することができた。

・特別休館期間の資料整理により、資料の現状把握や清掃をすることができた。市民学芸員の協力も得ることができ、博物館と市民による協働で作業を進めることができた。

・なるほど館で燻蒸を実施することでより多くの資料の燻蒸が可能になり、未燻蒸のため収蔵庫へ入れていなかった資料をまとめて燻蒸し、あるべき場所に収蔵することができた。作業室内に本来あるべき作業スペースができた。

(2)・保存箱製作については、令和元年度で製作を終了した。また、製作後に保存箱の交換を行ったことにより、古文書の適切な管理を進めることができた。

・古文書のデータベース化を進めた。

(3)・資料の修復等については、奈良輪漁協文書修復や鉄製品等の考古資料の外部委託による保存処理を計画的に行っているが、埋蔵文化財写真のデジタル化については、計画を見直して先送りにすることとし、平成 30 年度・令和元年度は実施しなかった。

・資料整理に専従する臨時職員を雇用したことにより、近年受け入れた民具の一部

把握とデータベース作成を進めることができた。

- ・特別休館日を設け、収蔵庫2の清掃と点検を行うことができ、一部の資料の状況を確認できた。
- ・清掃を行ったことにより、文化財害虫を確認することができた。

◆課題

- (1)・資料は所定の収蔵庫等で管理が行われ、現在のところ大きな劣化の進行等はなく特段問題等は発生していないが、収蔵庫内の温度や湿度を適正な数値に維持するためには、現状の空調機は老朽化による故障等が発生しており、注意が必要である。
 - ・博物館施設や設備の老朽化が著しく、資料を保存していくために適正とは言えず、修繕や改修工事を計画的に実施する必要がある。
 - ・環境調査に用いる害虫捕獲トラップについて、より実態に即した調査結果が反映されるようトラップの種類、設置方法等を調査し、再検討する必要がある。
 - ・収蔵庫が飽和状態にある。
 - ・市史編さん書庫が本来の使われ方をしておらず、デッドスペースが多くある。
- (2)・保存箱の入れ替え作業があまり進んでいない。
 - ・膨大にある古文書のデータベース化に時間を要するため、未整理量を把握し、終了時期等を定め、計画的に進める必要がある。
- (3)・埋蔵文化財写真のデジタル化委託については、限られた予算の中では、継続していくことが難しい。
 - ・修復資料の優先順位が定まっていないことや限られた予算の範囲内では1年に保存修復する点数が限られる。
 - ・近年受け入れた民具の整理の把握に時間を要する。
 - ・文化財害虫が発見されているため、管理に注意を要する。

◆今後の対応

- (1)・収蔵庫の空調機は将来の新設へ向けて、最新機器や導入事例等を調査する。
 - ・大規模改修工事が未定のため、保存資料に影響を与えないように最低限の改修は行っていく。
 - ・環境調査の内容について再検討するための調査、先進事例の情報収集を進める。
 - ・書庫を含め、これまでの資料の収蔵方法を見直し、新たな収蔵スペースを確保する。
- (2)・保存箱の入れ替え作業を進める。
 - ・未整理の古文書の量を把握し、作業量と期間を算定する。
- (3)・埋蔵文化財写真デジタル化については、次年度に繰り越し実施していくとともにその手法についても検討する。

- ・収蔵資料の保存修復は予算の範囲内で計画的に行っていく。
- ・修復が必要な資料を把握するためにも、古文書等、収蔵資料の劣化状況の確認に努めていく。
- ・近年受け入れた民具については、引き続き臨時職員を雇用し、データベース作成等台帳を整備していく。
- ・年末に行った収蔵庫の清掃や整理作業については、継続的・計画的に行っていく。

I 活動目標 (2)地域を探り、発信する —調査研究の深化と革新—

II あるべき姿

- (1)市民のニーズを捉え、これにマッチした中長期的な調査研究テーマが設定され、調査研究が継続的に行われている。
- (2)収蔵資料に関する情報の追加・修正が恒常的に行われている。
- (3)地域資料に関する情報が集積する場になっている。
- (4)調査研究の成果が公開されている。

III 令和元年度の取り組み内容

- (1)・テーマごとや地域資料の調査研究を行った。
 - 山野貝塚に関する調査
 - 袖ヶ浦市内の生物に関する調査
 - 中世荘園に関する調査などの研究テーマを職員各自で設定して継続した調査を行い、地域資料・情報も収集してきた。
 - ・寄贈等により収集した地域資料の一部を企画展等で活用するため精査を行った。
- (2)・博物館ホームページ上で収蔵資料リストの公開を行った。
 - 年 1500 件 古文書データベース作成
 - ・民俗資料、歴史資料のデータベース化と台帳作成を行った。
- (3)・寄贈や古文書などの資料購入などにより、新たな資料を収集することができた。
 - ：寄贈資料 13 件
 - ：資料購入 絵画資料 5 点、古文書 6 点
 - ・『市史研究』の原稿を募集したところ、研究者や市民から地域資料に関する研究成果を集めることができた。
- (4)・市史研究は隔年発行することとし、令和 2 年度刊行の第 20 号の現行募集等の準備を進めた。
 - ・企画展で調査研究成果を公開した。
 - 企画展 I 「袖ヶ浦の水辺～人と生き物の暮らし～」
 - 企画展 II 「幕末維新の西上総—おらがの慶応 4 年—」
 - ・企画展関連事業により調査研究成果を発表した。
 - 企画展 I ・ II 展示解説会
 - 企画展 II 関連事業「幕末維新サミット」
 - ・袖ヶ浦学では企画展に関連した調査研究成果の発表のほか、地域を見つめ直す題材の研究発表も行われた。
 - ・縄文講座の実施により山野貝塚及び袖ヶ浦の縄文時代について研究発表した。

IV 自己評価

◆成果・効果

- (1) ・企画展Ⅰは、市内の生物に関する調査の成果を展示に反映した。企画展Ⅱは、市史編さん事業で収集した古文書を精査することにより、眠っていた地域史にスポットを当て、史料に新たな価値を生成することができた。
 - ・山野貝塚については、継続して行っている調査研究の成果を縄文講座として市民に還元できた。
- (2) ・利用者がホームページを介して情報を得やすい環境をつくることができた。
 - ・新たな資料のデータベース化や台帳の作成を行い、検索や管理しやすい体制づくりを進めた。
- (3) ・寄贈や購入などによる新規の資料・情報を収集・保管することができ、地域研究に資する資料の幅が広がった。
 - ・袖ヶ浦市内から流出した古文書を回収することができた。
 - ・市史研究の原稿や地域資料に関する研究成果が集まった。
- (4) ・調査研究の成果を展覧会として公開し、また、展示パンフレット・図録刊行により、市民及び来館者に情報を還元することができた。企画展Ⅰは自然・生物についての調査成果と古文書・民具等の調査成果が融合した内容となった。企画展Ⅱでは、寄贈・寄託により館で収集・保管している資料を精査することで、地域史について新たな側面を提示することができた。

◆課題

- (1) ・他業務等により職員の調査研究のための時間を確保や継続的に取り組んで行くことが難しい。
- (2) ・HPで新たなデータを更新していない。
- (3) ・地域資料が博物館に集積する流れが広まっていない（周知されていない）。
 - ・近年、インターネットによる古文書の売買が盛んに行われている。袖ヶ浦市域からの流出例も増加しており、地域資料の散逸が懸念されている。
- (4) ・市史研究の寄稿者に偏りが見られる。
 - ・調査研究の成果は展覧会や市史研究などの紙面だけでなく、博物館ホームページでも公開し、だれもが学べる機会を提供する必要がある。
 - ・袖ヶ浦学は、専門職員の研究成果発表の場として、より活用されるべきである。

◆今後の対応

- (1) ・職員が調査研究できる状況を確保できるように努めることやスクラップアンドビルドを引き続き検討する。
- (2) ・新たなデータを更新するように努める。
- (3) ・博物館から多くの人々に情報を提供し、地域資料の収集につなげる。

- ・引き続き資料購入費を予算計上し、流出資料の回収に努める。
- (4) ・近隣市の在住の研究者等に寄稿を呼び掛け、市史研究のレベルアップをはかる。
- ・調査研究成果の情報公開手段を紙面に限らず様々な方面から検討する。
 - ・地域課題を調査し、袖ヶ浦独自のテーマをピックアップしていく。

I 活動目標 (3)学習・知的交流の拠点になる ー展示更新と市民参画ー

II あるべき姿

《展 示》

- (1)市民の意向に基づいた常設展示の更新計画があり、調査研究の成果が反映された展示となっている。
- (2)利用者が身近なものとして資料を捉えることができ、新たな発見や気づきがあるような展示になっている。
- (3)展示資料の選定と展示構成の意図がわかりやすく、利用者に対して双方向性の高い展示になっている。
- (4)企画展や特別展が計画的に実施され、市民の学習意欲に応えることや地域資料の有効活用が図られている。
- (5)市民が自らの意志で参画し、常設展の更新や企画展などが開催されている
- (6)情報機器が積極的に導入され、すべての利用者がさまざまな手段で情報を共有できるようになっている。

《普 及》

- (7)博物館に縁遠かった人びとを呼び込み、利用者層・数を拡大する工夫がこらされている。
- (8)市民の知りたいこと、学びたいことをリサーチし、ニーズに応える形で講習・講座等が実施されている。
- (9)さまざまなメディアを活用し、博物館活動のPRが継続されている。
- (10)図書資料の活用が図られるとともに、コピーサービスなどの体制がつくられ機能している。

《交 流》

- (11)新旧住民の交流の場となり、文化の掘り起こしが行えるような工夫がある。
- (12)市民が博物館活動に参画できる体制が構築され、博物館運営の原動力となっている。
- (13)利用者同士が交流できるスペースや装置等が整備され、相互学習や共同で活動できる環境になっている。

III 令和元年度の取り組み内容

- (1)・常設展示の通史展示を部分的に更新、調査研究の成果の一環として企画展を開催した。
 - ・前年開催の企画展の成果を常設展示（近現代）に活用した。
 - ・常設展示資料を企画展展示資料に位置づけ、活用した。

(2)・地域の資料を展示することで、身近なものとして捉えられるよう工夫した。

・企画展の開催による新たな価値の創造

企画展Ⅰ 自然資料・生体の展示により、郷土博物館が扱うジャンルと展示の可能性を拡大した。

企画展Ⅱ 幕末という人気の時代に館収蔵の地域資料を位置づけし、価値を付加した。

(3)・展示パネルは文字の大きさや読みやすさを重視し、記載内容もわかりやすくなるよう心掛けた。

・企画展チラシ・パンフレット・図録について、利用者に対し、展示内容理解の補助となるよう意識して作成した。

・常設展示は、利用者も経験したことのある新しい時代や人気の時代、身近な地域資料といった利用者の共感を得やすいものを選定して展示替えした。

(4)・年2～3回の企画展に加え、トピックス展示やロビー展を話題性に応じて開催した。

・令和元年度企画展3回、アクアラインなるほど館ロビー展10回（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期の1回含む）

(5)・市民学芸員や友の会が企画したロビー展をアクアラインなるほど館で行った。

：袖ヶ浦ナイススポット再発見！ 3/23～4/14（継続）

：万葉集、花と樹の歌 ～市民学芸員・瀧良子植物画の世界～ 6/22～7/15

：盆栽展 11/2～11/4

：ソデフローラⅦ 植物画展 11/19～12/15

：にっぽんの郷土風 1/8～2/2

：写真展 馬に乗った観音様 3/20～5/10

（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期）

(6)・ホームページの更新、市ホームページやSNS利用し、情報提供を積極的に行った。

ホームページアクセス件数 9,741 件

・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館により期間途中で中止となったアクアラインなるほど館ロビー展示「平安時代の〇〇村」をユーチューブ配信した。

(7)・ミュージアム・フェスティバルや市民学芸員子どもの日イベント等、各種教育普及事業を開催し、来館しやすい状況を提供した。

ミュージアム・フェスティバル 4,198 人

フィールド・アドベンチャー（3回） 66 人

こどもの日イベント「市民学芸員と遊ぼう！」 597 人

(8)・展覧会やイベント等でアンケート調査を実施して要望の把握に努め、公民館や他地域の博物館等と情報共有を行い、市民にどのような講座が求められているの
かりサーチした。

(9)・博物館ホームページ、市ホームページ・ツイッター・テレビ撮影を利用した PR
活動や情報提供を行った。

・新聞、地域紙、テレビ撮影等の媒体を活用した情報掲載を行った。

(10)・市内小学校の物流ネットワークによる蔵書や資料等などの貸出サービス

図書・資料等の貸出 4件 37点

・図書室での図書閲覧やコピーサービス

図書室利用者 10名

コピーサービス 74件

(11)・市民学芸員主催のこどもの日イベントやお飾り作り教室、友の会の凧揚げ会等
は、伝統を教える旧住民と学ぶ新住民という形での交流が見られる。

・市民学芸員や友の会の会員内では、新旧住民間の交流も促進されている。

・区長に声をかけてもらい、ミュージアム・フェスティバルに下新田区が参加して、
野菜販売を行った。

(12)・市民学芸員や友の会の活動を通して、博物館事業に市民が参画し、体験学習の
支援やミュージアム・フェスティバルでの役割を担っている。

市民学芸員 35名

博物館友の会 64名（令和2年6月末現在）

(13)・「そではくのもり」について、継続して整備を行った。

・アクアラインなるほど館のロビーを交流スペースとして活用した。

IV 自己評価

◆成果・効果

(1)・常設展示の更新や調査研究成果を活かした企画展などにより、新たな情報を利
用者に提供することができた。

・企画展のための調査研究成果を常設展示に還元できた。

(2)・これまであまり取り扱ってこなかった自然資料や生体の展示により、利用者に
博物館の身近さをアピールできた。

・地域資料を展示し、日本史・世界史の中に位置づけることで、利用者の知らなか
った地域の重要な資料や情報を提供し、その価値を伝えることができた。

(3)・企画展印刷物は、展示内容の理解を促進するのに有効であったと見られ、売り
上げも好調であった。

・展示内容に共感度を高めたことにより、展示を見た人からのリターン（情報提供
など）といった双方向性が見られた。

- (4)・地域資料を有効活用した企画展の開催により、袖ヶ浦市の新たな側面や魅力を市民にアピールし、学習意欲の向上にも貢献できた。
- (5)・市民学芸員自らが展示を企画することで学習意欲の向上を促し、成果を上げることができた。
- (6)・情報伝達手段を増やすことで多くの人々に発信することができた。
- (7)・ミュージアム・フェスティバルや子どもの日イベントでは、通常利用の少ない親子連れが多く参加し、博物館を知り、博物館ならではの体験をするなどの成果が認められた。
- ・ミュージアム・フェスティバルはこれまでの実績により認知度が高まり、リピーターが増加している。
 - ・ミュージアム・フェスティバルの貝輪作りは新たなコーナーとして定着した。
 - ・イベントなどを開催することにより、袖ヶ浦公園を利用する親子連れが、博物館を気軽に利用するようになった。
- (8)・記述の多いアンケートを実施することにより、個人が考えている要望とそのバックグラウンドを合わせて調査し、傾向と対策を分析することができた。
- ・他の社会教育施設の状況を知ること、博物館には来ない人の傾向と要望を推測することができた。
- (9)・メディアの種類を増やすことでより多くの人にPRすることができた。
- (10)・物流ネットワークによる資料の貸出の体制を利用できた。
- ・図書のコピーサービスや図書利用などの活用を図れた。
- (11)・市民学芸員や友の会といった市民組織において、新旧住民の交流ができた。
- (12)・市民学芸員や友の会会員などの地域の人々が博物館活動に参画することで、事業運営の原動力となっている。
- (13)・そではくの森にリピーターもできた。
- ・アクアラインなるほど館での休憩目的の利用者もいる。

◆課 題

- (1)・展示に対する市民の意向を把握していない。
- ・第3次展示基本構想が停止したままとなっており、改修計画とあわせて検討する必要がある。
 - ・上総掘り展示室の展示更新を長期間行っていない。
 - ・体験学習用に昔の生活道具を展示している情報提供室について、現在の子どもたちにとってもう少し身近な昔(祖父母の子供時代など)の展示も検討すべきである。
- (2)・利用者が資料に関心を持ち、身近なものとして捉えるためには、アンケート等で市民のニーズをうかがうだけでなく、まず職員それぞれが、収蔵資料をはじめとした地域資料について精査を続け、袖ヶ浦の魅力ある事象についてこれまで以上

に見識を深める必要がある。

(3)・利用者の共感を得やすい時期（昭和 40 年代以降など）の資料を展示に増やす必要がある。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加体験型の展示ができない傾向にある。

(4)・職員の世代交代が進行しており、市民の学習意欲にグローバルに対応できる職員の育成が求められる。

(5)・過去に行っていたような市民学芸員の大規模な企画展を行っていない。市民学芸員の高齢化により、特別展示室を使用した展示を検討・実施する余力のある市民学芸員が減少している。

(6)・ホームページの内容に博物館らしさが少ない。

・データの更新などに時間を要する。

・展示に多言語対応ができていない。

(7)・博物館に来館しない人々のニーズを掘り起こし、体験イベント以外の講習・講座を実施する必要がある。

・博物館に全く来ない人・来たことのない人へのアピール方法を検討する必要がある。

(8)・アンケート結果が活用しきれていない。

・アンケート等に記された市民ニーズを丸呑みするのではなく、それを活用してさらに上の講座等を目指すには、対応する職員にも高い経験値が求められる。

(9)・PR 活動や普及事業などにより市内での認知度は高まったが、博物館を利用したことのない市民も未だ多い。

(10)・物流ネットワークを整備されているものの、昨年に引き続き、利用が促進されていない。

・図書室が閉室のため、利用しにくい。

(11)・博物館事業としては、主として新旧住民交流を意識した事業の取組は行っていない。

・旧住民は博物館事業への参加が少ない傾向がある。博物館事業への参加に地域差が見られる。

(12)・市民学芸員や友の会会員が参画する体制はあるが、一般市民が気軽に参加する体制が構築されていない。

・参加する市民の固定化や高齢化が進んでいる。

・継続のための工夫が必要。

(13)・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用者同士の交流は当面勧められない。

・アクアラインなるほど館については、換気ができないため当面休館を余儀なくされている。

◆今後の対応

(1)・アンケートなどにより見学者の意向を調査する。

・引き続き調査研究の成果を常設展示の展示更新に活用していく。

・上総掘りの展示室について、近年の上総掘り技術伝承研究会の活動成果も踏まえ、更新を図る。

・1980年代などのちょっと昔の展示を検討する。

(2)・業務の中で館内研修を行うなど、職員が袖ヶ浦について知る・研究する時間を多く設けるようにする。

・アンケート等による市民ニーズの把握については、今後も継続して行っていく。

(3)・1980～90年代といった親世代の青春時代の資料を多く収集し、親子や家族で楽しめ、世代間交流に貢献できる展示を行い、見学した人からのさらなる情報提供をめざす。

・新しい生活様式のもとで可能な双方向性展示について、調査研究を進める。

(4)・市民の多岐にわたる学習意欲に応え続けるためには、若手職員の調査研究及び学習の時間を多く設ける必要がある。

(5)・市民学芸員全体会議や定例会などで今後の企画展等について検討する。

・市民学芸員養成講座の内容を充実させ、企画・展示ができる市民学芸員を育成するとともに現在在籍している市民学芸員の育成にも力を入れる。

(6)・ユーチューブなどを効果的に活用する。

・博物館としての情報を求めてホームページを検索した人が満足できるように、コラム等を取り入れホームページの内容を充実させる。

・展示の多言語化を進める。

(7)・体験イベントでの集客で満足するのではなく、博物館らしい個性のある講座なども充実していくように努める。

・広報・周知の方法について、さまざまな媒体を活用できるようにする。

(8)・アンケートは引き続き実施する。

・公民館・図書館等、他の社会教育施設の講座や他の博物館の講座に参加するなど実体験に基づいた調査をする。

・常に市民よりも上の知識を持てるように、職員が学ぶ意識を持ち続ける。

(9)・多くの市民が目に触れるようなメディアで取り上げられるために、積極的なPR活動を進める。

・来館につながった人々が利用したメディア等について分析を行う。

(10)・学校教育のニーズを把握するように努め、物流ネットワークを活用できる体制

を整える。

- ・図書室常時開室へ向けて検討する。

(11)・新旧住民交流を意識した取り組みを検討する。

- ・旧住民の多い地域、博物館事業への参加が少ない地域の住民が関心を持ちやすい内容を検討し、周知を徹底する。

(12)・博物館活動についての情報公開をこまめに行い、博物館内部をオープンにすることにより、利用者が単独で気軽に参画できる体制を検討する。

(13)・新しい生活様式のもとで可能な利用者交流について、先進事例を調査し、検討する。

I 活動目標

(4)地域のつながりを活かす—地域連携の展開—

II あるべき姿

- (1)袖ヶ浦のことなら何でもわかる博物館になっている。
- (2)博物館が学びの拠点となって地域がつながるシステムが構築されている。
- (3)地域連携によって新たな価値が発見・創造され、その成果が発信されている。
- (4)博学連携が効果的に機能し、子どもたちの学びがサポートされている。
- (5)他の社会教育機関・博物館等とのつながりや地域の企業、NPO等との交流がより強化されて、市民の学び・交流がサポートされている。

III 令和元年度の取り組み内容

- (1) ・各種情報の管理と各種問い合わせに応じた対応
各種問い合わせ 13件
・調査研究やその成果の展示活動を行い、刊行物などによる情報公開
調査研究、企画展・ロビー展等の開催、企画展パンフレット刊行、市史研究等の研究成果の発表等
- (2) ・年2～3回の企画展、ロビー展及び関連事業の実施。
・袖ヶ浦学などの講座を開催し、学びの拠点となった。
・博物館を拠点とする団体が一体となって、教育普及事業を実施した。
：ミュージアム・フェスティバル
：こどもの日イベントなど
・博物館を拠点として活動している団体による地域貢献
：友の会凧の会 新春凧揚げ会
：友の会古文書いろはの会 企画展Ⅱへの史料読解等協力
：友の会盆栽の会 盆栽展開催時の盆栽教室実施
：市民学芸員郷土を学ぶ会 公民館講座への出前講座
：市民学芸員葉月の会 植物画講座
・公民館との連携の促進
：根形公民館成人絵画教室作品展開催
：公民館講座等への出前講座
- (3) ・地域連携モデルの一試案として、根形公民館との連携を強化した。
・前年度に作成した「行ってみようマップ」を活用し、博物館を中心とした根形地区散策を奨励した。
・フィールドアドベンチャーや夏の単発イベントで袖ヶ浦公園を活用した。
- (4) ・小学校3年生、6年生の校外学習支援
・出前事業や実物資料、教材の貸し出し、教育カリキュラムに応じたアウトリー

チの実施

- ・教員の修の受け入れや教育カリキュラム相談
- ・小中学生の調べる学習への支援
- ・教員経験者を社会教育指導員として配置し、博学連携事業に多く参加してもらった。

(5) ・市内外施設や機関へ講師等の派遣

9件（うち市民学芸員3件）

- ・君津地方公立博物館協議会へ参加
研修会、合同調査など広域地域連携の実現を図った。
- ・博図公連携事業へ参加
- ・企画展Ⅰ、フィールドアドベンチャーにおけるNPOとの連携。
：しいの森ホテル観察会（椎の森里山会）
：自然観察会～谷津田の生き物を見てみよう～（上総自然学校）

IV 自己評価

◆成果・効果

- (1) ・市民が新たな価値を発見し、新たな学びの目的を創造できるような生涯学習の拠点となり、地域の歴史や文化を深く理解する機会を提供することができた。
 - ・市内に限らず市外、県外からの利用者に対して、袖ヶ浦市内の歴史・文化の有効な情報を提供できた。
- (2) ・企画展や講座などの開催により、学びの拠点となった。
 - ・友の会・市民学芸員の活動により地域の団体との連携を深めることができた。
 - ・市民学芸員の活動も含め、公民館講座等で博物館の研究成果を発表することが出来た。直近の公民館である根形公民館とは相互協力ができた。
- (3) ・根形公民館成人絵画教室作品展をアクアラインなるほど館で開催することにより、新たな来館者を獲得することが出来た。
 - ・多くの人に、根形地区の文化財や魅力について知ってもらい、博物館が文化の拠点であることも印象付けることができた。
- (4) ・博物館が学びの場として市内の子どもたちに利用され、教科書では得ることのできない実物資料や、より深い知識を獲得する教育環境を提供し、活用された。
 - ・教員経験者が博物館職員として博学連携に関わることで、学校側の視点を理解しやすくなり、より博物館の意図が子どもたちに伝わりやすくなった。
- (5) ・社会教育機関や他市博物館と連携を深めることができた。
 - ・椎の森里山会・上総自然学校との連携により、魅力ある事業が実施でき、博物館の可能性も広がった。

◆課題

- (1) ・資料や情報の整理が不完全である。
 - ・専門職員が足りず、対応が後回しになることがある。
- (2) ・博物館を利用する団体相互の連携については、あまり進んでいない。
 - ・公民館講座への出前はあるが、公民館サークル等による自主的な博物館利用は確認できない。
- (3) ・根形以外の地区とも、公民館を媒介に連携していく必要がある。
 - ・袖ヶ浦公園を活用しきれていない。
- (4) ・市外の学校については、対応する職員人員や体制が整わないため、市内小学校と同じ対応ができているとは言えない。
 - ・学校・教員側の事業へのかかわりが浅くなってきている。
- (5) ・積極的に地域の企業や NPO との連携は図れていない。

◆今後の対応

- (1) ・地域資料や情報の整理及び把握に努める。
 - ・簡単な質問について誰でも対応できるよう、資料を作成する。
- (2) ・博物館を利用する機関・地域・団体等同士の間を博物館がサポートする。
 - ・根形地区については、博物館を中心に袖ヶ浦公園・根形公民館といった施設が一体化して、学びと楽しみの拠点となれるようにイメージを構築する。
 - ・公民館・図書館との連携をさらに促進する。
- (3) ・根形地区については、さらなる連携モデルを推進する。
 - ・各公民館との連携を強化する。
 - ・市民学芸員郷土を学ぶ会が作成した「袖ヶ浦散策」を活用し、各地域との連携を深める。
 - ・袖ヶ浦公園のさらなる活用方法を検討する。
- (4) ・市外小学校からの依頼については、資料を貸出しするとともに、指導方法等を教員へ周知して対応してもらう。
 - ・事前打ち合わせ等で教員等に博学連携や体験学習の趣旨や教員の役割について理解してもらう。
 - ・博物館側も指導要領や教材等の研究を行い、学校側の実情について理解を深める。
- (5) ・企業や NPO 等へアンケートを実施し、相手側のニーズについて調査するとともに、博物館の意向についてアピールする。

<p>I 活動目標 (5)安心・安全な施設にする―改善と維持管理―</p>
<p>II あるべき姿</p> <p>(1)管理施設の現状が把握されていて、計画的なメンテナンス、修繕、改修等の計画が立てられている。</p> <p>(2)バリアフリー・ユニバーサルデザインの理念に基づいて安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、実行できている。</p>
<p>III 令和元年度の取り組み内容</p> <p>(1)・定期的な施設、設備の点検の実施及び修理の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急な故障や破損等の修繕 ・月1回の安全点検の実施 ・個別施設計画の策定 ・台風15号被害個所への対応 <p>(2)・障害者施設、高齢者施設の団体受入れを積極的に進めた。</p>
<p>自己評価</p> <p>◆成果・効果</p> <p>(1)・経年劣化や設備の故障等については、それぞれ予算の範囲内で対応し、不具合を改善した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館施設や設備の老朽化や不具合について調査を行い、修繕・改修の優先順位を把握し、対応について検討した。 ・台風15号による被害個所については迅速に対応した。 <p>(2)・利用者からは好評であり、リピーターも多く獲得した。・</p> <p>◆課題</p> <p>(1)・博物館施設の長寿命化へ向けた個別施設計画が策定されたが、展示リニューアル等の位置づけがないため、現実的でない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年々、施設の老朽化が進んでおり、対応に苦慮している。 <p>(2)・館全体的なユニバーサルデザイン計画がない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本館入口のドアが重く、高齢者や子どもには利用しづらい。 ・多言語化対応ができていない。 <p>◆今後の対応</p> <p>(1)・展示リニューアルも含めた大規模改修工事が実施できるよう庁内で調整をはかる。</p> <p>(2)・ユニバーサルデザインを進めている博物館の先進事例を調査する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語化については、可能なことから対応を進める。

I 活動目標 (6)袖博らしさを追求する—マネジメント力の強化—

II あるべき姿

- (1) 周辺の施設等や大学・研究機関等と連携し、市民の憩いの場である袖ヶ浦公園を生かした魅力的な事業展開が図られている。
- (2) 博物館活動と市民活動が一体となった活動を推進し、周辺の遺跡や歴史遺産の解明や深化に努めるための魅力的な活動が継続されている。
- (3) 市民と共に歩む博物館として認知され、高度な博物館活動を担える新たな研究者や専門家の人材の確保・育成ができています。

III 令和元年度の取り組み内容

- (1) ・フィールド・アドベンチャーによる袖ヶ浦公園における野鳥観察
フィールド・アドベンチャー「冬の野鳥観察会 ～上池の鳥たち～」2/23
・夏の単発イベント「ジュニア学芸員講座」の袖ヶ浦公園周辺での実施
・袖ヶ浦公園管理組合が実施する「動植物観察会」への事業協力による連携
・関係団体と連携により、植物やホタルの観察会などの事業実施(袖ヶ浦公園以外)
- (2) ・市民学芸員の地域の歴史や文化財の調査への活動支援
・企画展Ⅱ関連事業としてのバスツアーを通じたフィールドワークの実施。
- (3) ・専門研究者から袖ヶ浦市史研究への寄稿
・調査においての新たな研究者による助言
・博物館実習生の受け入れによる学芸員後継者育成
博物館実習生 6名

IV 自己評価

◆成果・効果

- (1) ・フィールド・アドベンチャーでは、袖ヶ浦公園内にあるという立地を生かした企画や袖ヶ浦公園管理組合のほか、関係団体と連携した取り組みを実施することにより、歴史系の事業だけではなく、自然系事業など魅力ある事業展開を行うことができた。
- (2) ・市民とともに調査を行うことにより、市民への文化財保護の意識向上につながった。
・バスツアーという気軽に参加しやすい事業を通して、地域への関心を高めることができた。
- (3) ・博物館の調査研究活動を共に行える研究者や人材との協力体制を作ることができた。

- ・専門的な見地から助言をいただき、博物館活動に良い効果を得ることができた。
- ・次代を担う新たな学芸員を育成することができた。

◆課 題

- (1)・大学や研究機関と連携して事業展開が図れていない。
 - ・袖ヶ浦公園については、さらなる活用について検討の余地がある。
- (2)・調査研究について、博物館と市民が一体となった活動が行われていない。
 - ・テーマを絞った継続的な講座や活動が行われていないので、歴史の解明や深化まで至っていない。
- (3)・継続した研究体制ができていない。

◆今後の対応

- (1)・大学や研究機関との連携について検討する。
 - ・袖ヶ浦公園を活用した魅力ある企画を検討する。
 - ・他機関との連携について、先進事例なども調査する。
- (2)・文化財保護活動に対して市民が積極的に参画できるような講座を企画し、次のステップとして博物館とともに研究できるような人材を育成する。
 - ・公民館講座との連携を進める。
- (3)・これからも地域の新たな人材を掘り起こしていくとともに、大学などの研究機関と連携を深め、博物館活動への協力を求めていく。